

第50回 市政世論調査

《概要版》

(令和5年度)

新 潟 市

< 目 次 >

I 調査概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査の項目	3
3. 調査の設計	3
4. 集計・分析にあたって	3
5. 回収結果	4
6. 区（行政区）の範囲	5
7. 回答者の特性	6
II 調査結果	7
1. 新潟市子ども条例について	9
（1）新潟市子ども条例の認知度	9
（2）守られている子どもの権利	10
（3）お子さんの考えや意見の理解と尊重	11
（4）子どもを取り巻く課題	12
（5）子どもの権利を守るために必要なこと	13
2. 新潟市の公共施設のこれからについて	14
（1）公共施設の利用頻度と主な交通手段	14
（2）公共施設を取り巻く課題等の認知度	16
（3）公共施設を維持する取り組み	17
（4）公共施設を利用する場合の自宅からの範囲	18
3. 音楽とのかかわりについて	19
（1）音楽とのふれあい	19
（2）ふれている音楽	20
（3）音楽に関する環境の充実度	20
（4）「スポーツと音楽都市」として必要なもの	21
（5）音楽とともに楽しみたいもの	22
4. こころの健康について	22
（1）日常生活の悩みやストレス	22
（2）悩みやストレスを感じる原因	23
（3）最近1年以内に死にたいと思ったこと	24
（4）悩みがあるときや死にたいと思ったときの相談相手	24
（5）相談機関の認知度	25
5. 空き家について	26
（1）地域の空き家の今後	26
（2）空き家対策の取り組みの認知状況	27
（3）必要だと思う空き家対策	28
（4）空き家の所有者（管理者）になる可能性の認知度	29
（5）空き家にしないための話し合い	29
6. 市政全般と区政について	30
（1）新潟市として良くなっているもの	30
（2）新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの	31
（3）区として良くなっているもの	32
（4）区として今後もっと力を入れてほしいもの	33

I 調 査 概 要

1. 調査の目的

この調査は、市民生活の現状、市民の市政に対する意識、満足度、要望などを把握し、今後の市政運営の基礎資料を得る目的で実施する。

2. 調査の項目

(1) 新潟市子ども条例について	本質問	5問
(2) 新潟市の公共施設のこれからについて	本質問	4問
(3) 音楽とのかかわりについて	本質問	5問
(4) こころの健康について	本質問	5問
(5) 空き家について	本質問	5問
(6) 市政全般と区政について	本質問	1問
(7) 対象者属性	本質問	5問

3. 調査の設計

- (1) 調査地域：新潟市全域
- (2) 調査対象：令和5年3月末現在の住民基本台帳に登録されている15歳以上の市民
- (3) 標本数：4,000人
- (4) 抽出方法：単純無作為抽出法
- (5) 調査方法：郵送法（調査票の配付、回収とも）、インターネット回答法（回答のみ）
- (6) 調査期間：令和5年8月10日～8月31日

4. 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」とは回答者総数（または該当者質問での該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 数値（%）は単位未満を四捨五入してあるので、総数と内訳の計が一致しないこともある。
- (3) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。

5. 回収結果

(1) 区（行政区）について

新潟市は平成19年4月の政令指定都市移行にともない8つの区（行政区）を設置している。

今回の調査では、対象者の居住地を8つの「区（行政区）」（次頁区分図参照）に分け、集計・分析を行った。

(2) 回収結果

	母集団 (人)	母集団 構成比	標本数 (人)	有効 回収数	有効 回収率
市全体	682,105	100.0%	4,000	2,093	52.3%
北 区	63,612	9.3%	391	190	48.6%
東 区	117,350	17.2%	623	318	51.0%
中央区	153,429	22.4%	923	479	51.9%
江南区	59,467	8.7%	363	180	49.6%
秋葉区	66,128	9.7%	378	198	52.4%
南 区	38,152	5.6%	251	131	52.2%
西 区	135,447	19.9%	787	430	54.6%
西蒲区	48,520	7.1%	284	147	51.8%
区名無回答				20	

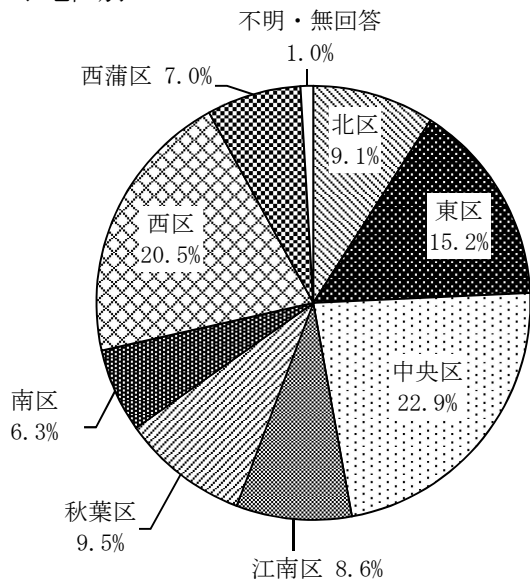
6. 区（行政区）の範囲

<区分図>

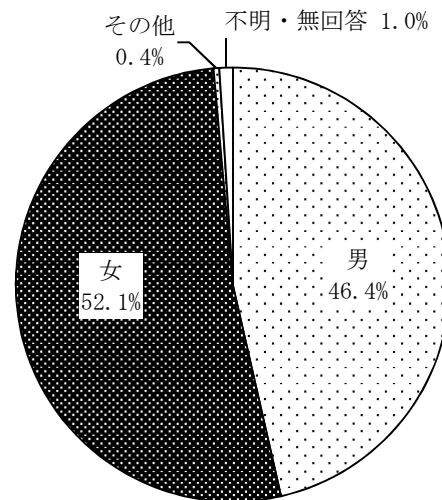


7. 回答者の特性

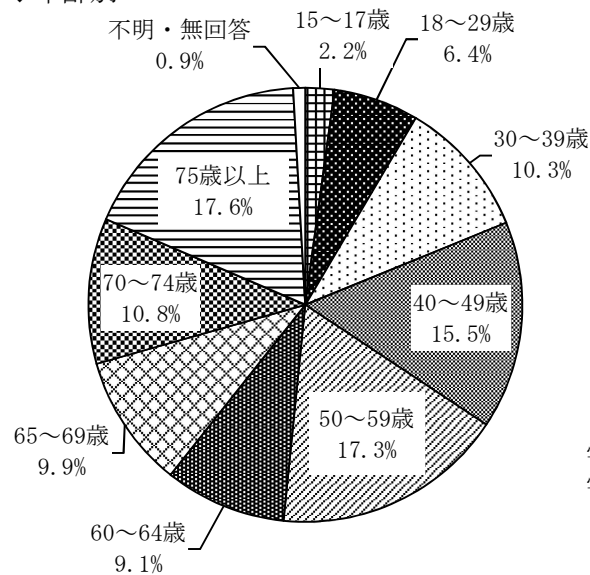
◆地区別



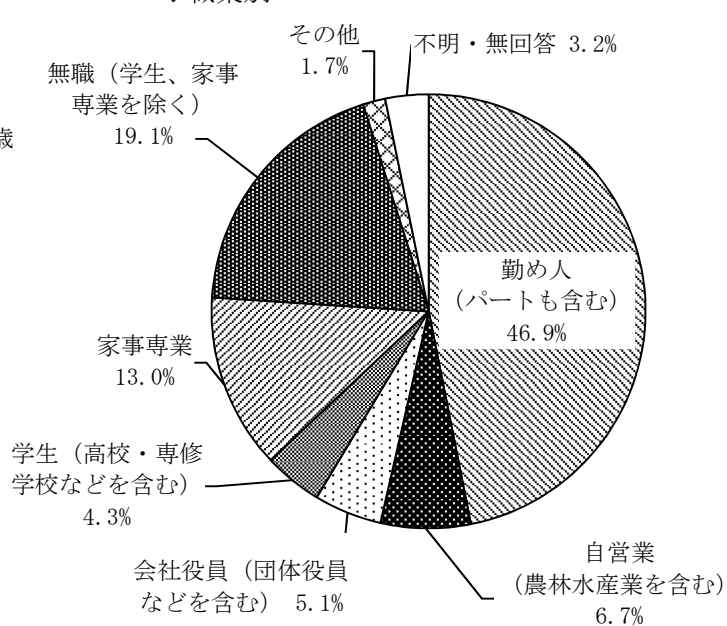
◆性別



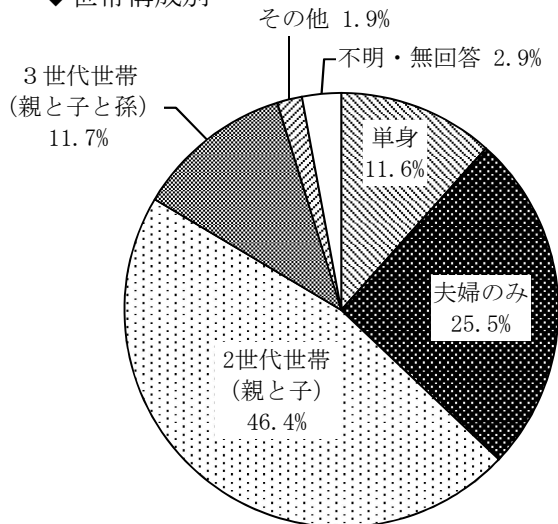
◆年齢別



◆職業別



◆世帯構成別

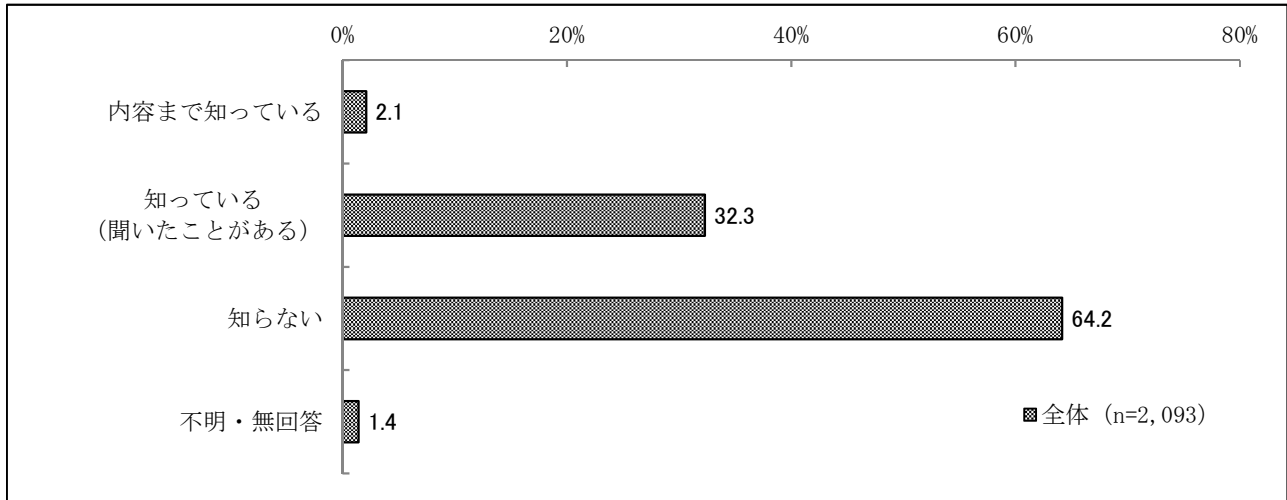


II 調查結果

1. 新潟市子ども条例について

(1) 新潟市子ども条例の認知度

問1 あなたは「新潟市子ども条例」を知っていますか。(○は1つだけ)

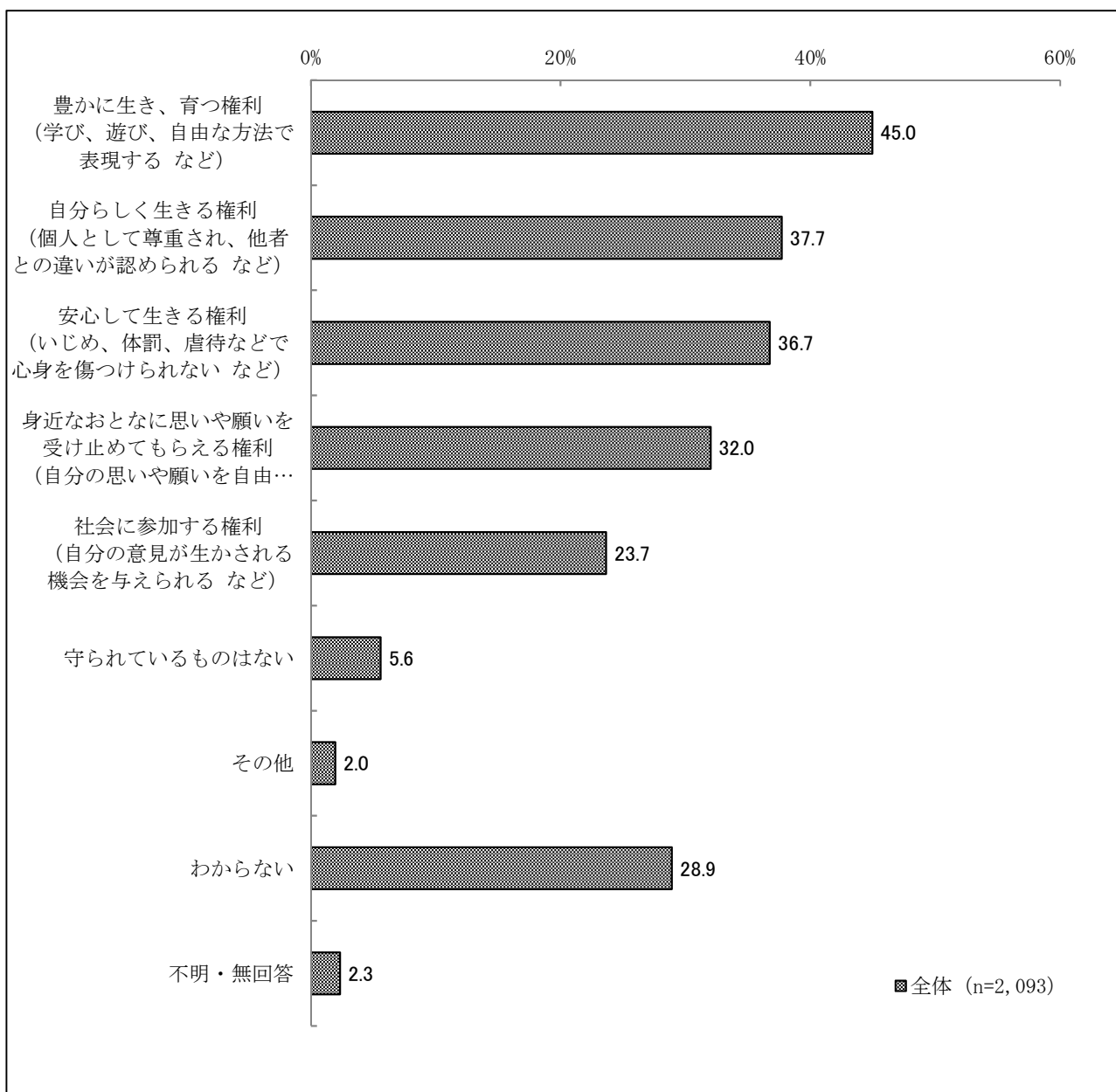


— 3割半ばが子ども条例に関する情報を「知っている」—

「内容まで知っている」と「知っている (聞いたことがある)」を合わせた『知っている』 (34.4%) は、3割半ばとなった。「知らない」 (64.2%) は、6割半ばとなった。

(2) 守られている子どもの権利

問2 あなたのお子さんや周りのお子さん(18歳未満の方が回答する場合は「あなた自身」)について、日々の生活のなかで、以下の子どもの権利は守られていると思いますか。
(○はいくつでも)

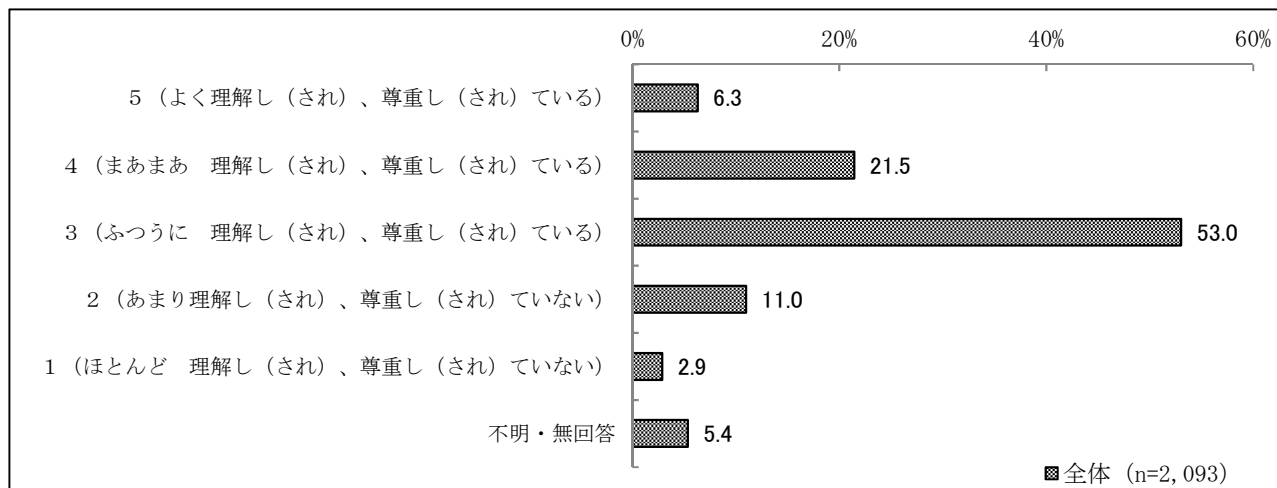


— 守られている権利は「豊かに生き、育つ権利」が4割半ばでトップ —

「豊かに生き、育つ権利 (学び、遊び、自由な方法で表現する など)」(45.0%)の割合が高く、4割半ばとなった。一方、割合が低かったのは「社会に参加する権利 (自分の意見が活かされる機会を与えられる など)」(23.7%)であった。

(3) お子さんの考えや意見の理解と尊重

問3 あなたのお子さんや周りのお子さんについて、お子さんの考えや意見を理解し、尊重して（18歳未満の方が回答する場合は、「あなた自身の考えや意見が、理解され、尊重されて」と）いると思いますか。
「よく理解し（され）、尊重し（され）ている」を「5」とする5段階評価で、一番あてはまるものを1つだけ選択してください。

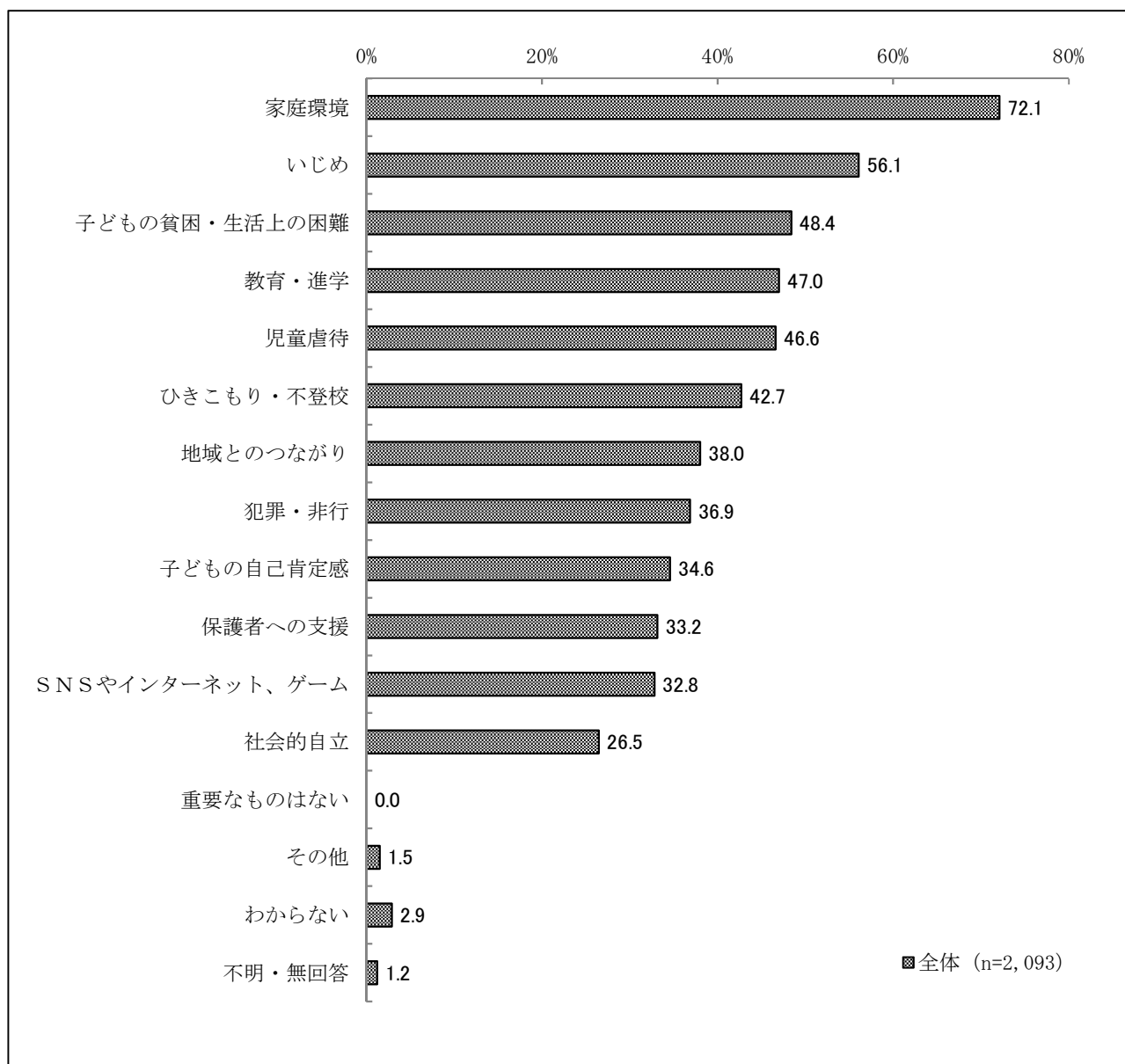


— 『理解し（され）、尊重し（され）ている』が約8割 —

「よく理解し（され）、尊重し（され）ている」（6.3%）、「まあまあ理解し（され）、尊重し（され）ている」（21.5%）、「ふつうに理解し（され）、尊重し（され）ている」（53.0%）を合わせた『理解し（され）、尊重し（され）ている』（80.8%）は全体の約8割となった。「あまり理解し（され）、尊重し（され）ていない」（11.0%）、「ほとんど理解し（され）、尊重し（され）ていない」（2.9%）を合わせた『理解し（され）、尊重し（され）ていない』（13.9%）は1割強となった。

(4) 子どもを取り巻く課題

問4 子どもを取り巻く課題として重要だと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)



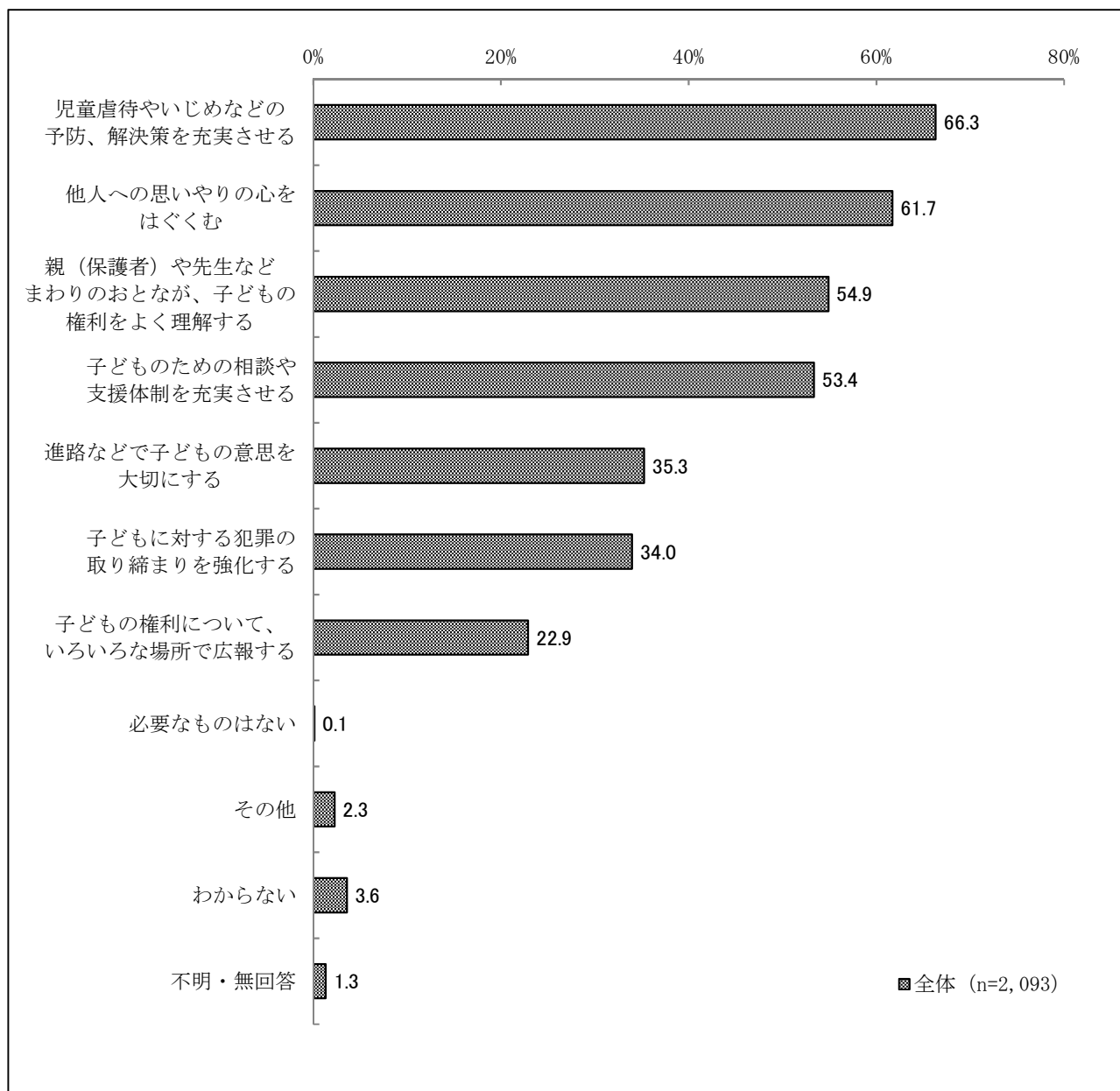
— 子どもを取り巻く課題は「家庭環境」が約7割でトップ —

子どもを取り巻く課題として重要だと思うものとして「家庭環境」(72.1%)の割合が最も高く、約7割となった。次いで、「いじめ」(56.1%)、「子どもの貧困・生活上の困難」(48.4%)、「教育・進学」(47.0%)、「児童虐待」(46.6%)の順となった。

「重要なものはない」と答えた人はわずかに1人(0.05%)だった。

(5) 子どもの権利を守るために必要なこと

問5 子どもの権利を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)



— 「児童虐待やいじめなどの予防、解決策を充実させる」が6割半ばでトップ —

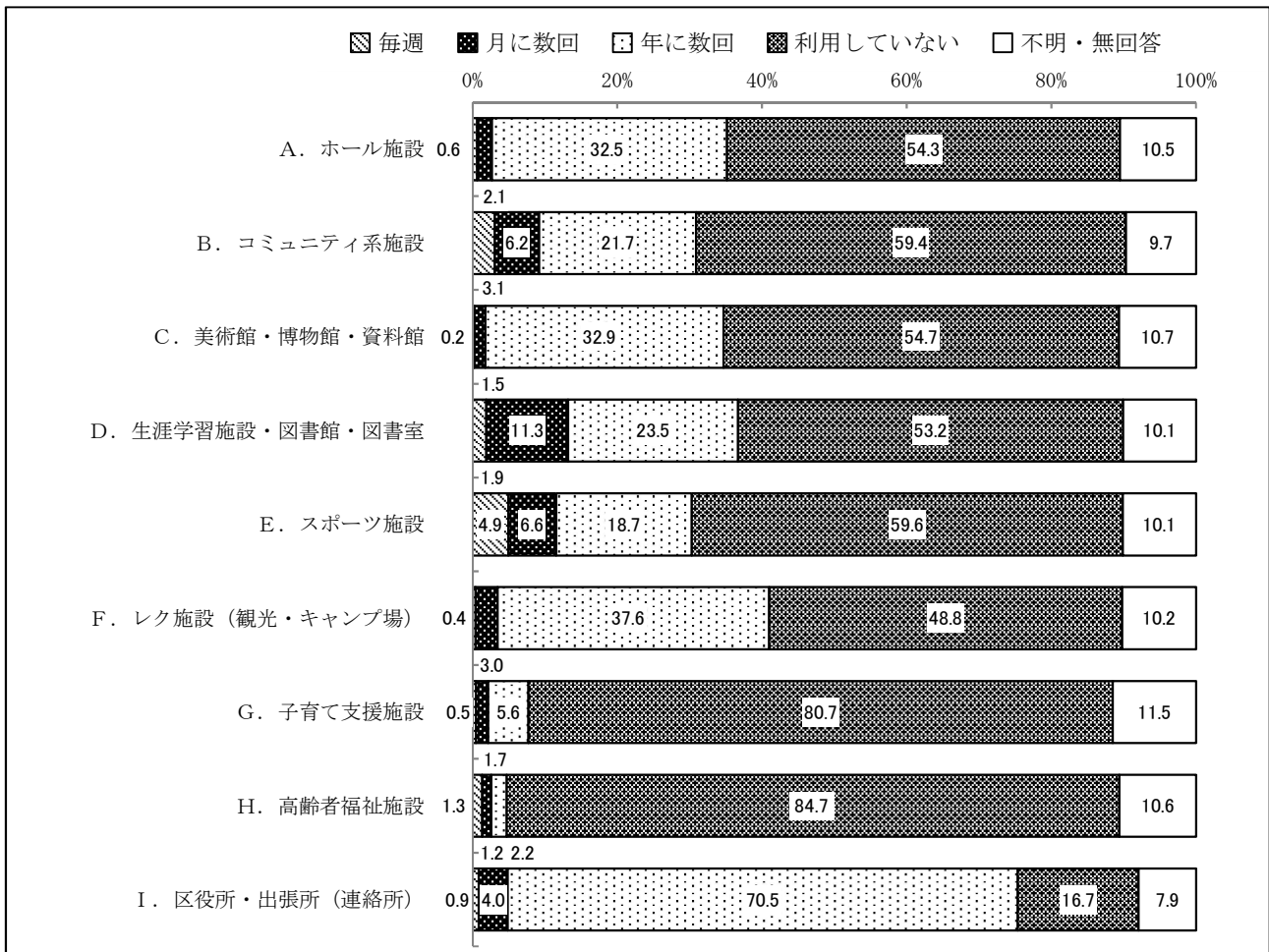
「児童虐待やいじめなどの予防、解決策を充実させる」(66.3%)の割合が最も高く、6割半ばとなった。次いで、「他人への思いやりの心をはぐくむ」(61.7%)、「親(保護者)や先生などまわりのおとなが、子どもの権利をよく理解する」(54.9%)、「子どものための相談や支援体制を充実させる」(53.4%)の順で割合が高かった。

2. 新潟市の公共施設のこれからについて

(1) 公共施設の利用頻度と主な交通手段

問6 あなたは新潟市が所有する以下の公共施設について、最近1年間（R4.4～R5.3）にどのくらいの頻度で利用しましたか。また、利用する時は、主にどのような交通手段を使いましたか。

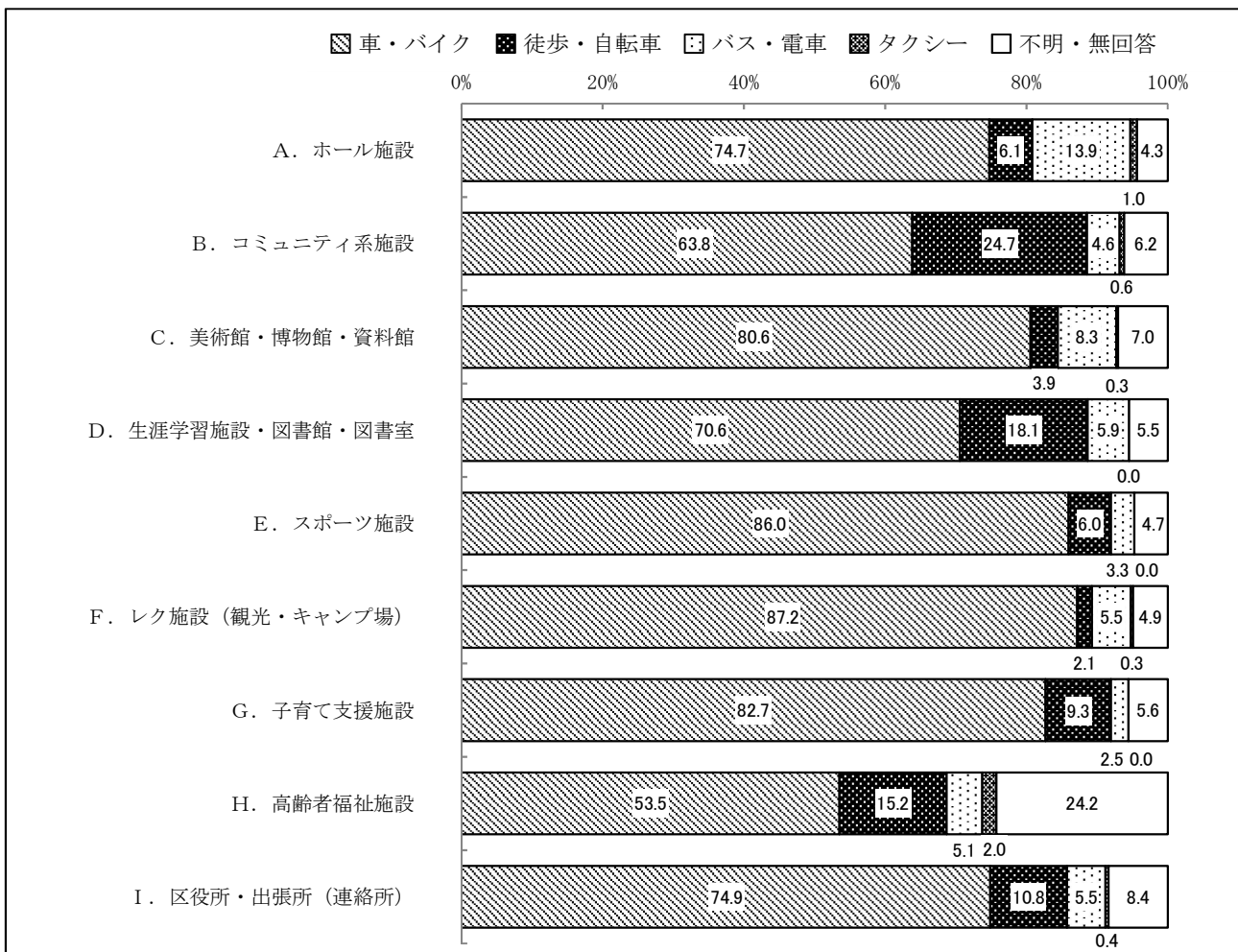
① 年間の利用頻度



— 最も『利用する』のは「区役所・出張所（連絡所）」で7割半ば —

「毎週」、「月に数回」、「年に数回」を合わせた『利用する』の割合は、「区役所・出張所（連絡所）」（75.3%）で最も高く、7割半ばとなった。次いで「レク施設（観光・キャンプ場）」（41.0%）、「生涯学習施設・図書館・図書室」（36.7%）と続き、「利用していない」の割合は「高齢者福祉施設」、「子育て支援施設」で8割を超えた。

② 主な交通手段



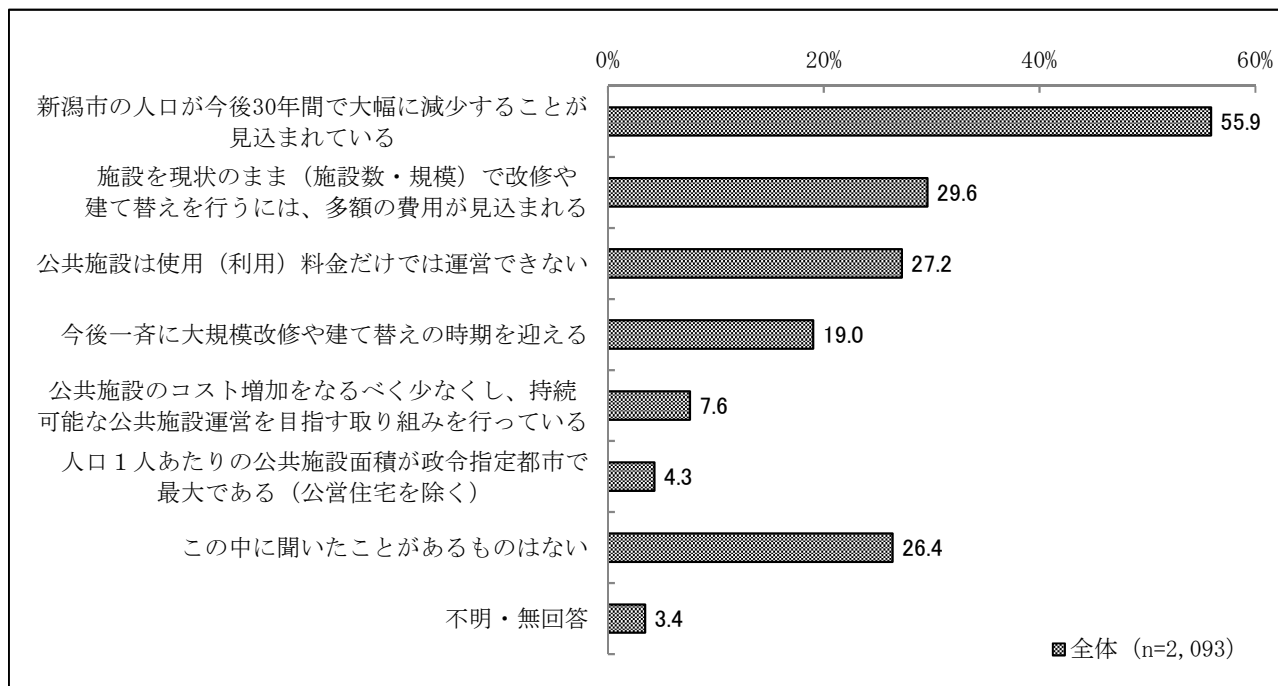
— 主な交通手段は「車・バイク」が全ての施設種類でトップ —

施設利用の交通手段はすべての施設で「車・バイク」が最も高かった。「車・バイク」の利用の割合が高いのは、「レク施設（観光・キャンプ場）」（87.2%）、「スポーツ施設」（86.0%）、「子育て支援施設」（82.7%）の順で、いずれも8割を超えている。

「コミュニティ系施設」では、「徒歩・自転車」（24.7%）の割合も高く2割半ばとなった。

(2) 公共施設を取り巻く課題等の認知度

問7 あなたは、新潟市の公共施設に関する以下のことについて聞いたことがありますか。
(○はい/□いいえ)

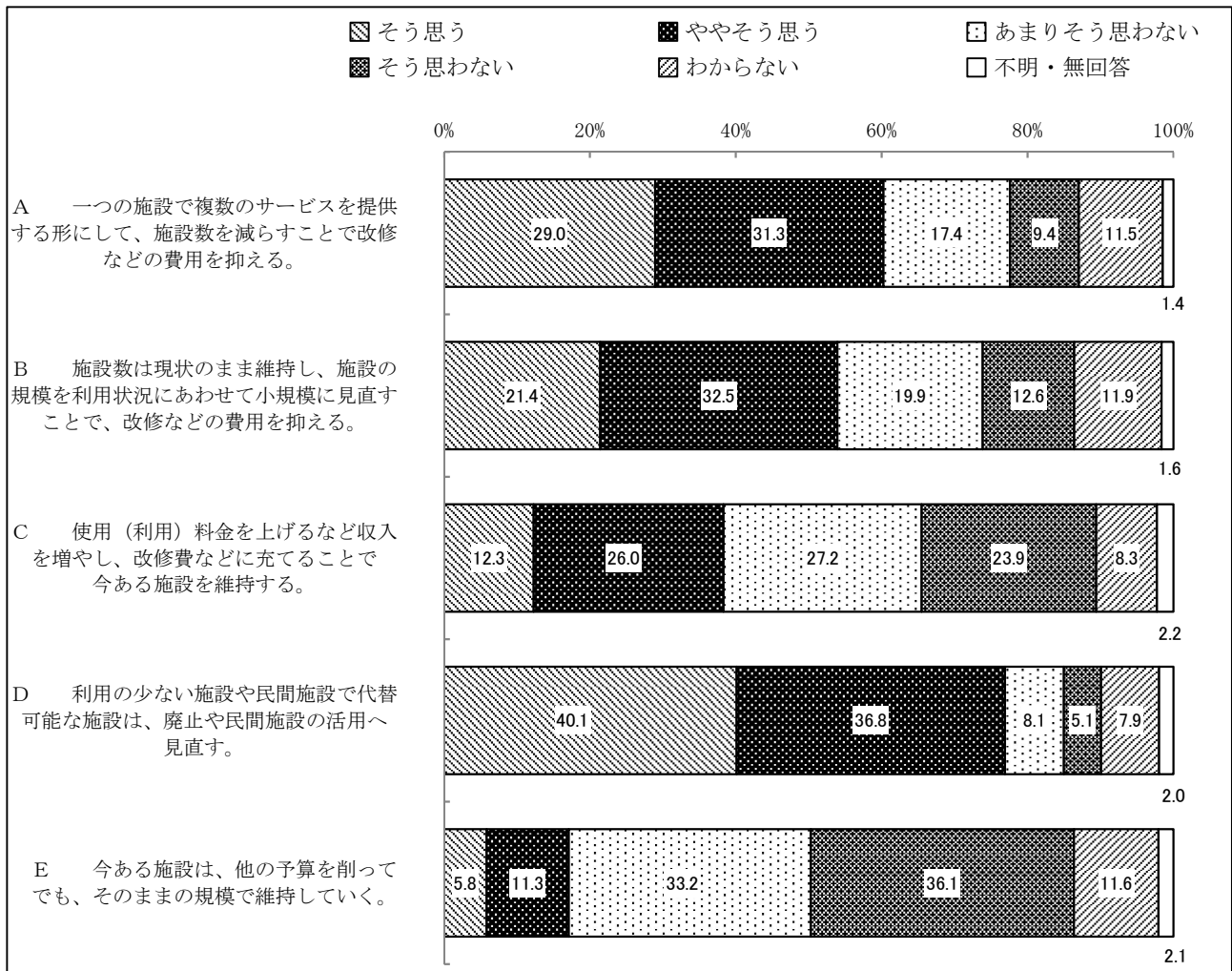


— 「新潟市の人口が今後30年間で大幅に減少することが見込まれている」が5割半ばでトップ —

「新潟市の人口が今後30年間で大幅に減少することが見込まれている」(55.9%)が最も割合が高く、5割半ばとなった。次いで、「施設を現状のまま（施設数・規模）で改修や建て替えを行うには、多額の費用が見込まれる」(29.6%)が約3割となった。「この中に聞いたことがあるものはない」(26.4%)は3割未満であった。

(3) 公共施設を維持する取り組み

問8 新潟市の公共施設を維持していくために、どのように取り組んでいくべきだと思いますか。
A～Eの各取り組みに対して、どう思うかそれぞれ○をつけてください。

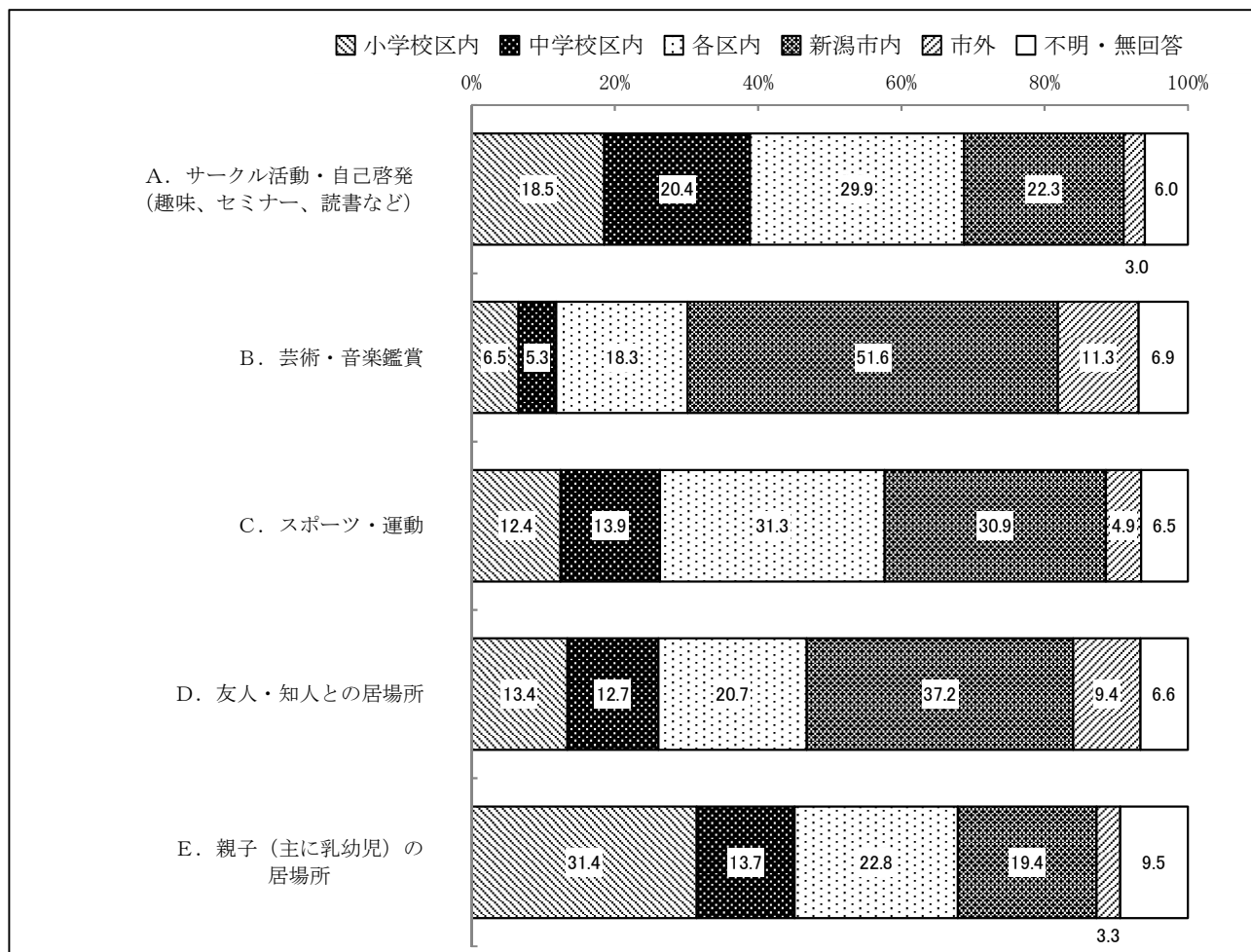


— 『そう思う』は「D 利用の少ない施設や民間施設で代替可能な施設は、廃止や民間施設の活用へ見直す。」が7割半ばでトップ —

「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が「D 利用の少ない施設や民間施設で代替可能な施設は、廃止や民間施設の活用へ見直す。」(76.9%)で最も高かった。次いで、「A 一つの施設で複数のサービスを提供する形にして、施設数を減らすことで改修などの費用を抑える。」(60.2%)、「B 施設数は現状のまま維持し、施設の規模を利用状況にあわせて小規模に見直すことで、改修などの費用を抑える。」(53.9%)、「C 使用（利用）料金を上げるなど収入を増やし、改修費などに充てることで今ある施設を維持する。」(38.3%)、「E 今ある施設は、他の予算を削ってでも、そのままの規模で維持していく。」(17.1%)の順に続いた。

(4) 公共施設を利用する場合の自宅からの範囲

問9 あなたが以下の目的で公共施設を利用する場合に、自宅からどのくらいの範囲までならその施設を利用しますか。A～Eについて、あてはまるものを1ずつ選んで○をつけてください。



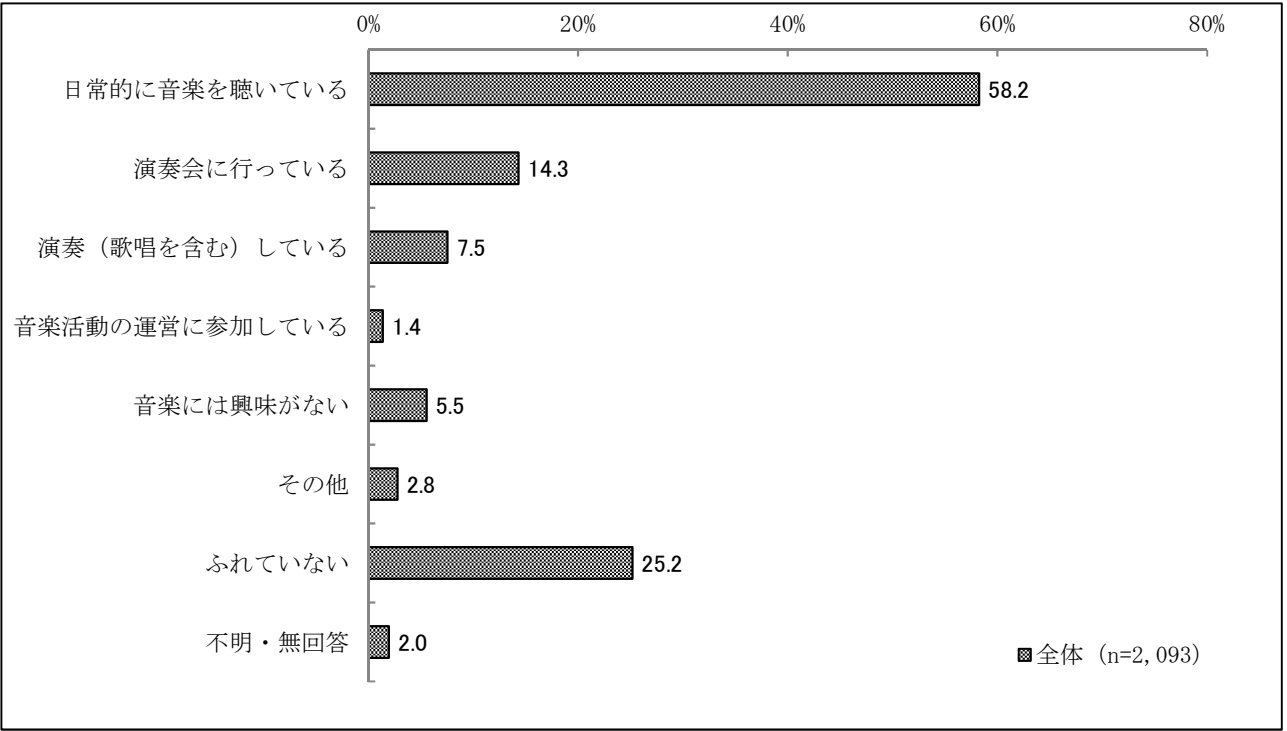
— 利用目的によって移動範囲に違いが見られた —

「A. サークル活動・自己啓発(趣味、セミナー、読書など)」は「各区内」(29.9%)、「B. 芸術・音楽鑑賞」は「新潟市内」(51.6%)、「C. スポーツ・運動」は「各区内」(31.3%)、「D. 友人・知人との居場所」は「新潟市内」(37.2%)、「E. 親子(主に乳幼児)の居場所」は「小学校区内」(31.4%)が高かった。

3. 音楽とのかかわりについて

(1) 音楽とのふれあい

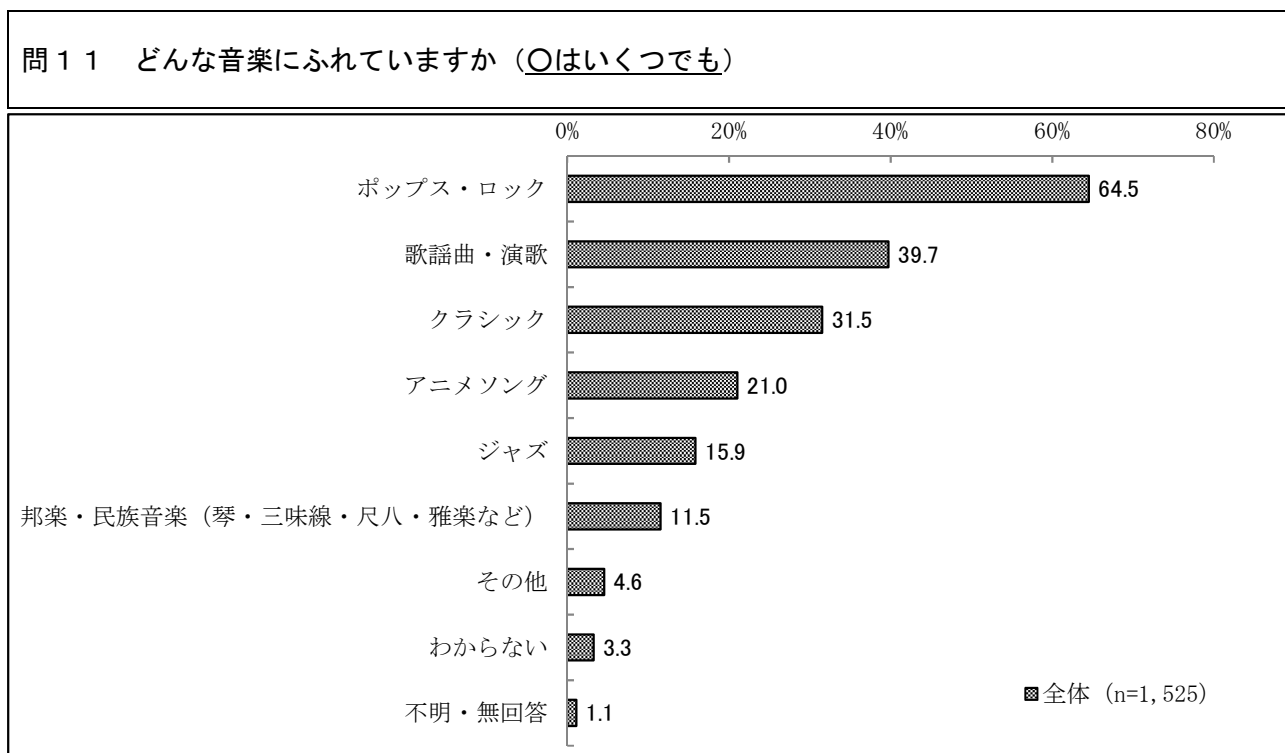
問10 あなたは、音楽にふれていますか（〇はいくつでも）



— 6割弱が「日常的に音楽を聴いている」—

「日常的に音楽を聴いている」（58.2%）の割合が最も高く、6割弱となった。一方、割合が低かったのは「音楽活動の運営に参加している」（1.4%）であった。

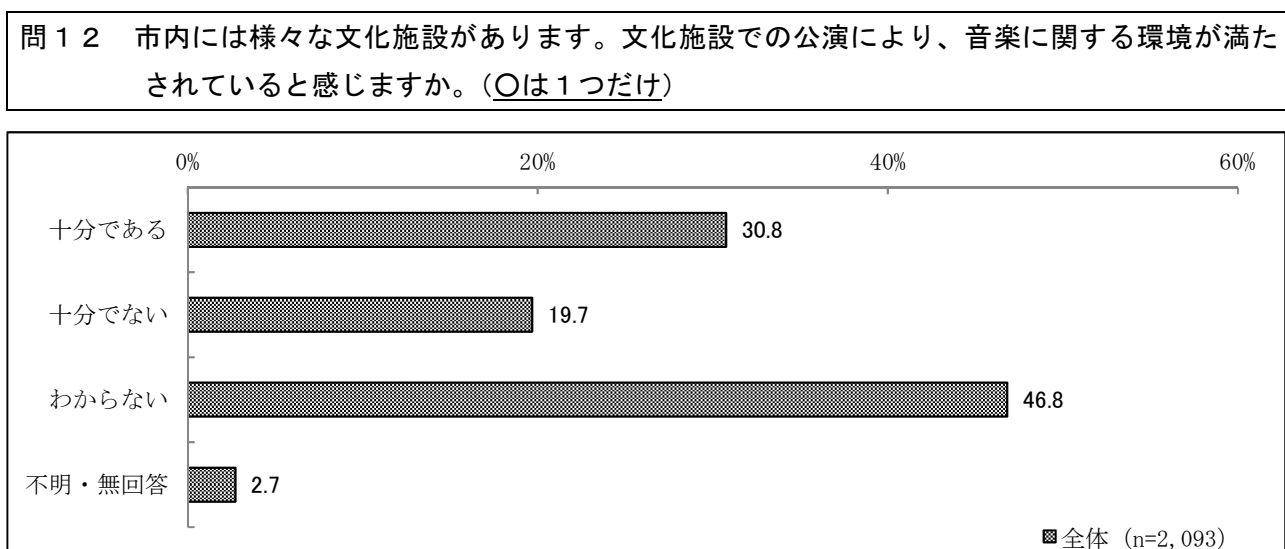
(2) ふれている音楽



— 「ポップス・ロック」が6割半ばでトップ —

「ポップス・ロック」(64.5%)の割合が最も高く、次いで「歌謡曲・演歌」(39.7%)、「クラシック」(31.5%)、「アニメソング」(21.0%)の順となった。

(3) 音楽に関する環境の充実度

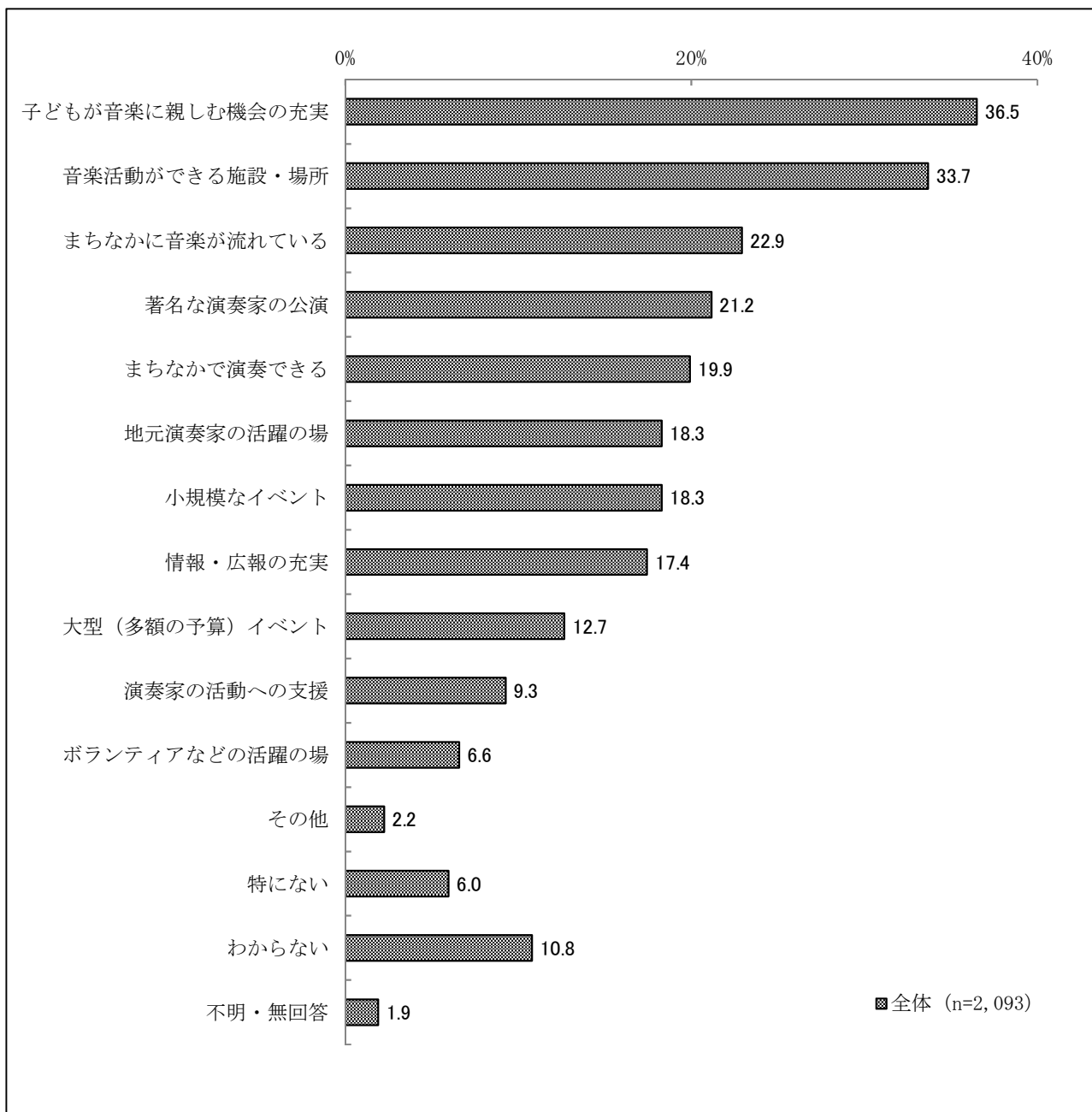


— 音楽に関する環境が「十分である」が約3割 —

「十分である」の割合は約3割となった。一方で、「わからない」の割合が5割弱となった。

(4) 「スポーツと音楽都市」として必要なもの

問13 「スポーツと音楽都市」として新潟市の音楽に関する環境を充実させるために、何が重要だと思いますか。(〇は3つまで)

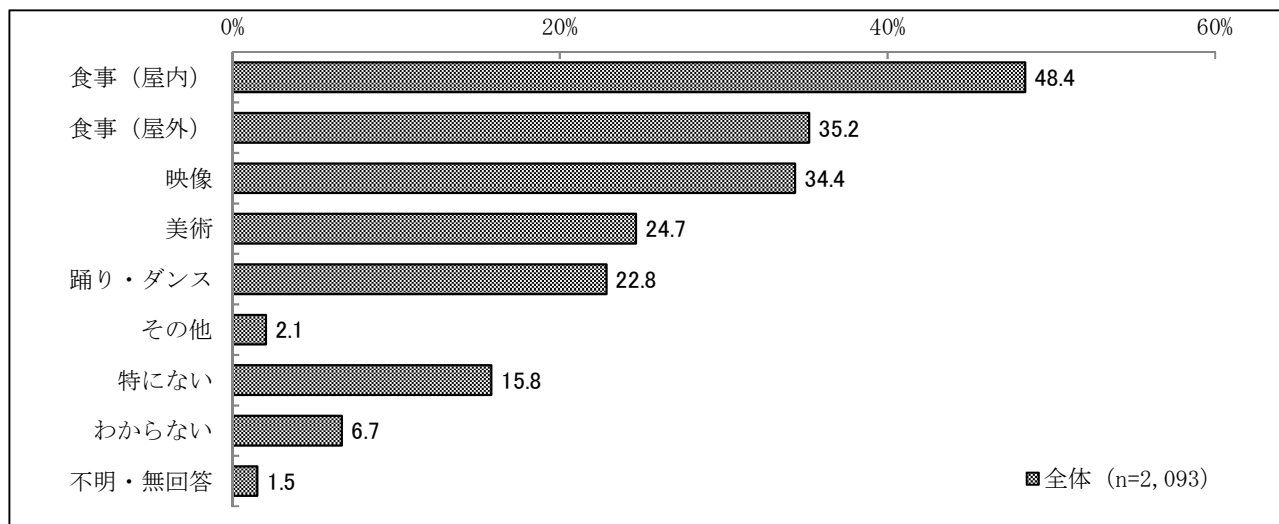


— 「子どもが音楽に親しむ機会の充実」が3割半ばでトップ —

「子どもが音楽に親しむ機会の充実」(36.5%)、「音楽活動ができる施設・場所」(33.7%)の割合が高く、3割半ばとなった。次いで、「まちなかに音楽が流れている」(22.9%)、「著名な演奏家の公演」(21.2%)の順となった。

(5) 音楽とともに楽しみたいもの

問14 音楽とともに楽しみたいものはありますか。(〇はいくつでも)



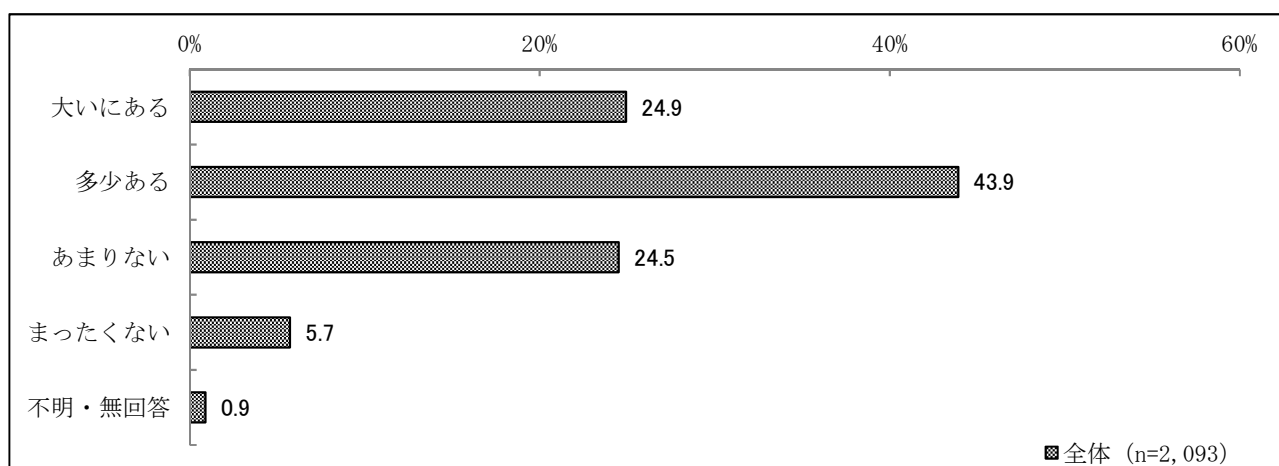
— 「食事(屋内)」を楽しみたいが約5割でトップ —

「食事(屋内)」(48.4%)が最も割合が高く、約5割となった。次いで、「食事(屋外)」(35.2%)、「映像」(34.4%)が続く。

4. こころの健康について

(1) 日常生活の悩みやストレス

問15 あなたは、この1ヶ月の間に、日常生活で悩みやストレスを感じたことがありますか。(〇は1つだけ)

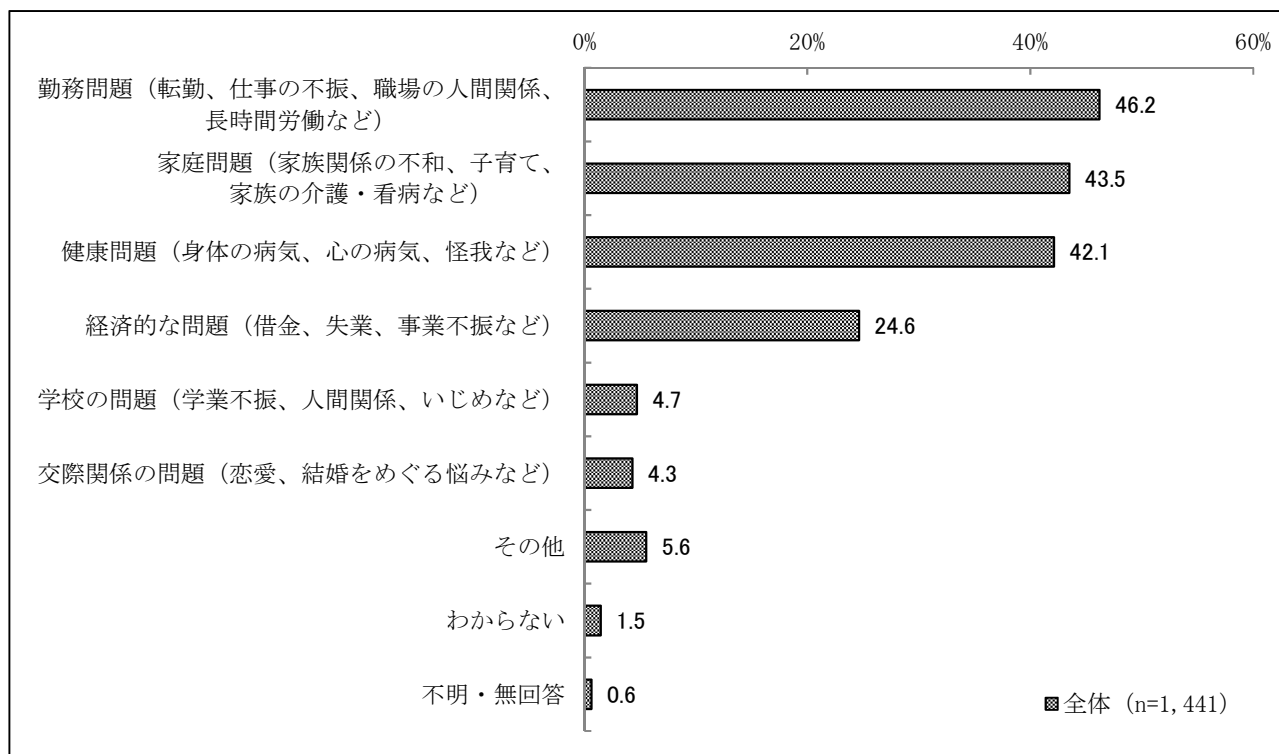


— 合計で約7割がストレスを感じたことが『ある』 —

「多少ある」(43.9%)、「大いにある」(24.9%)を合わせた『ある』は68.8%で約7割となった。

(2) 悩みやストレスを感じる原因

問16 問15で「大いにある」、「多少ある」とお答えになった方にお聞きします。
それは、どのような事が原因ですか。(〇はいくつでも)

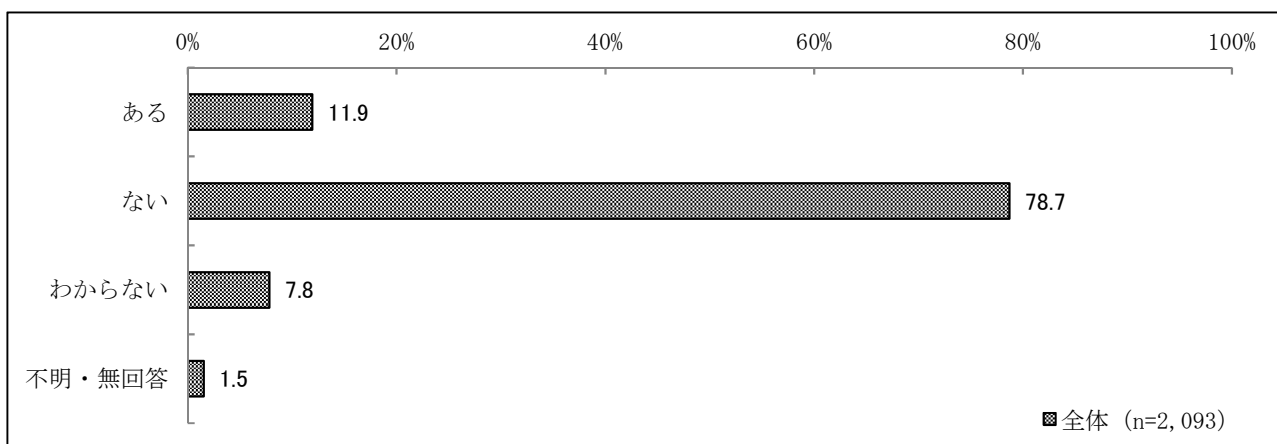


— 「勤務問題 (転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働など)」が4割半ばでトップ —

「勤務問題 (転勤、仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働など)」(46.2%) が最も高く4割半ばとなっており、次いで多いのが「家庭問題 (家族関係の不和、子育て、家族の介護・看病など)」(43.5%)、「健康問題 (身体の病気、心の病気、怪我など)」(42.1%) の順で、いずれも4割を超えている。

(3) 最近1年以内に死にたいと思ったこと

問17 あなたは、最近1年以内に、死にたいと思ったことがありますか。(○は1つだけ)

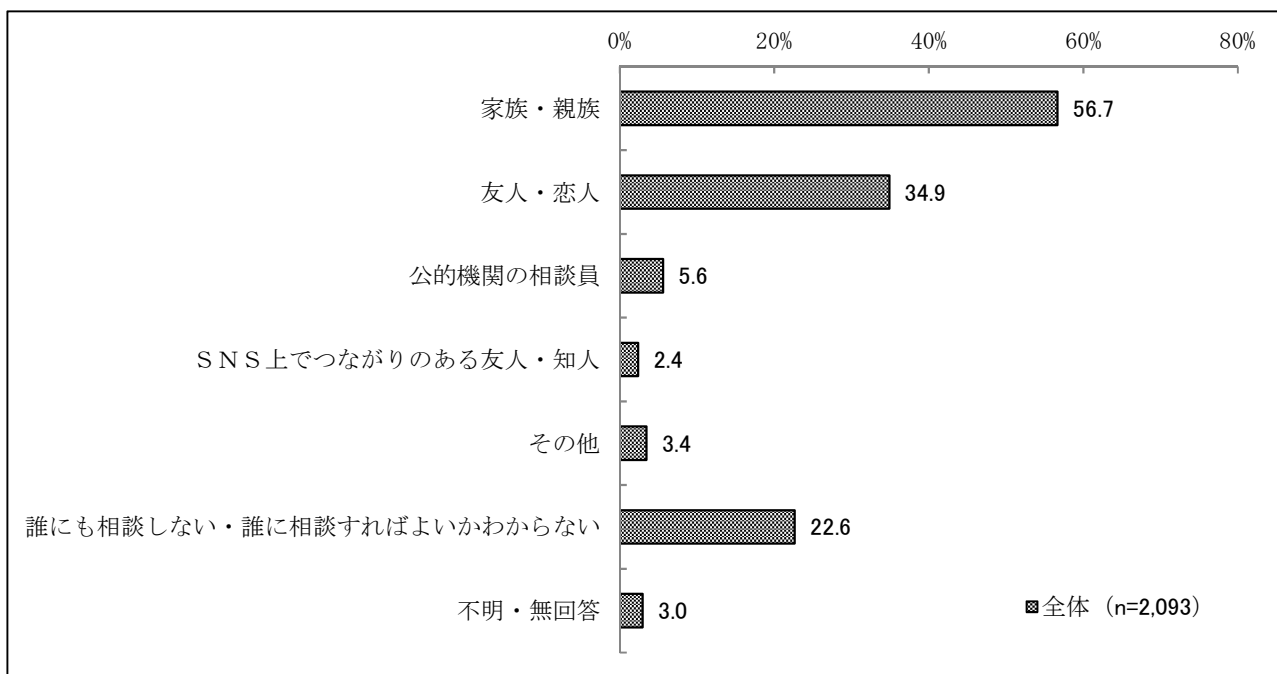


— 「ある」は1割強 —

「ある」(11.9%)の割合が1割強となった。

(4) 悩みがあるときや死にたいと思ったときの相談相手

問18 あなたは、悩みがあるときや死にたいと思ったときなど、誰に相談しますか。(○はいくつでも)

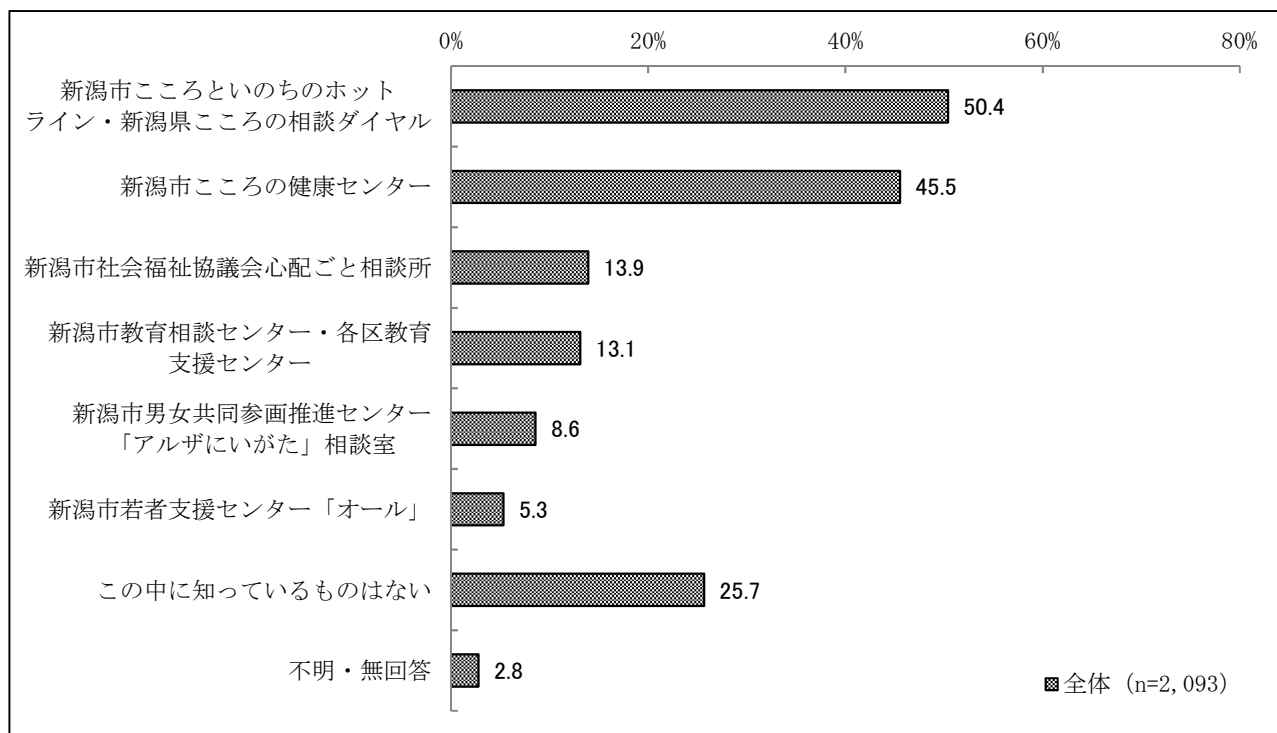


— 「家族・親族」が5割半ばでトップ —

「家族・親族」(56.7%)、「友人・恋人」(34.9%)、「誰にも相談しない・誰に相談すればよいかわからない」(22.6%)の順に高かった。

(5) 相談機関の認知度

問19 あなたは、相談機関を知っていますか。知っている・聞いたことがある相談機関を選んでください。(〇はいくつでも)



— 「新潟市ころといのちのホットライン・新潟県ころの相談ダイヤル」が約5割でトップ —

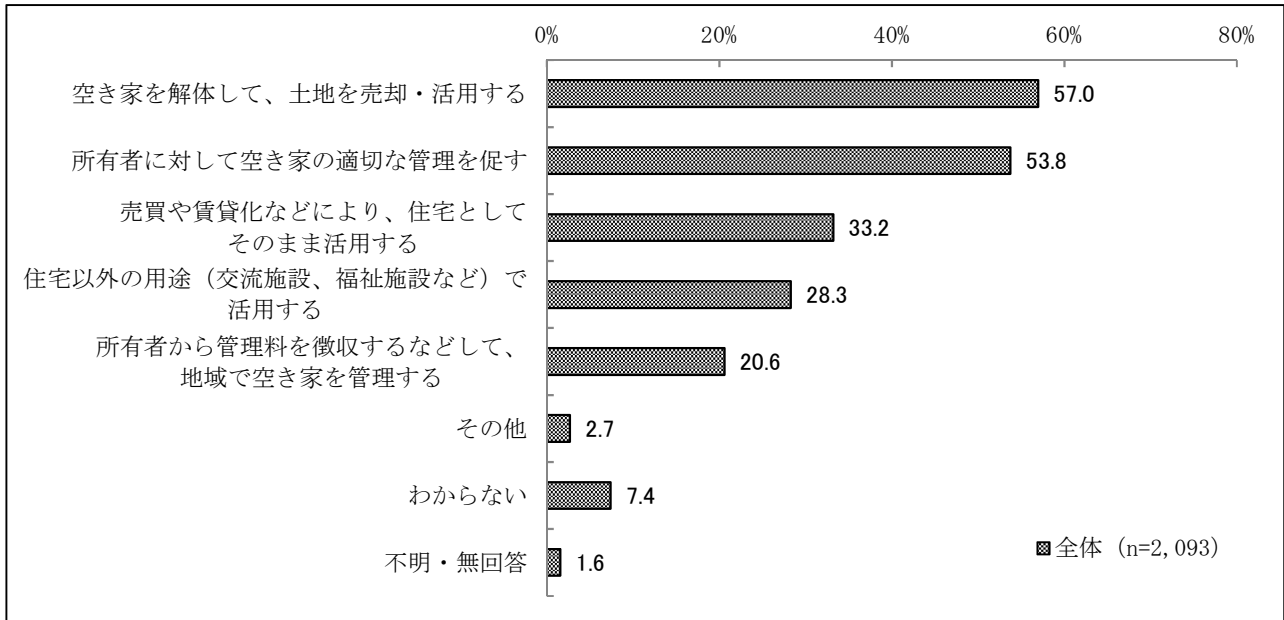
「新潟市ころといのちのホットライン・新潟県ころの相談ダイヤル」(50.4%)が最も高く、約5割となった。次いで、「新潟市ころの健康センター」(45.5%)が高かった。「この中に知っているものはない」は2割半ばとなった。

5. 空き家について

(1) 地域の空き家の今後

問20 あなたは、地域の空き家を今後どうしていきべきだと思いますか。

(〇はいくつでも)



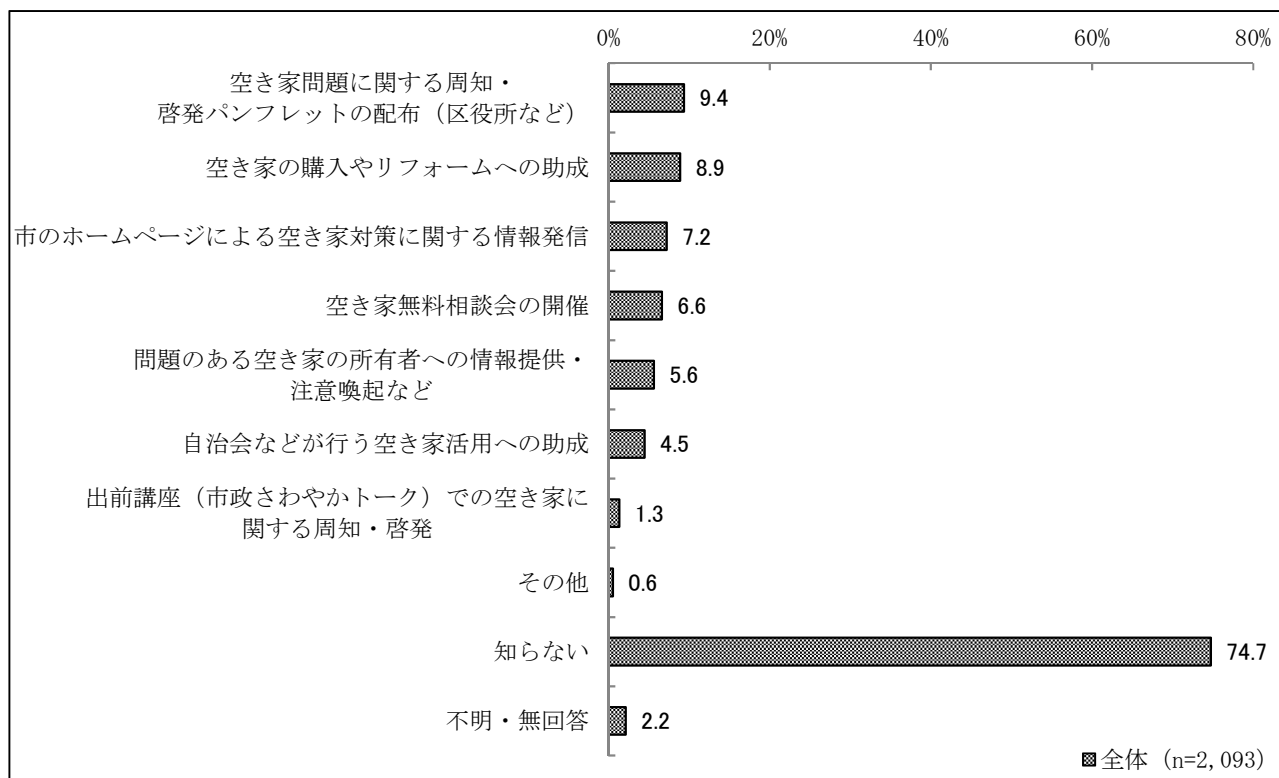
— 「空き家を解体して、土地を売却・活用する」が6割弱でトップ —

「空き家を解体して、土地を売却・活用する」(57.0%)が最も高く、次いで高いのが「所有者に対して空き家の適切な管理を促す」(53.8%)となった。

(2) 空き家対策の取り組みの認知状況

問 2 1 あなたは、市で行われている空き家対策の取り組みについて知っていますか。

(○はいくつでも)

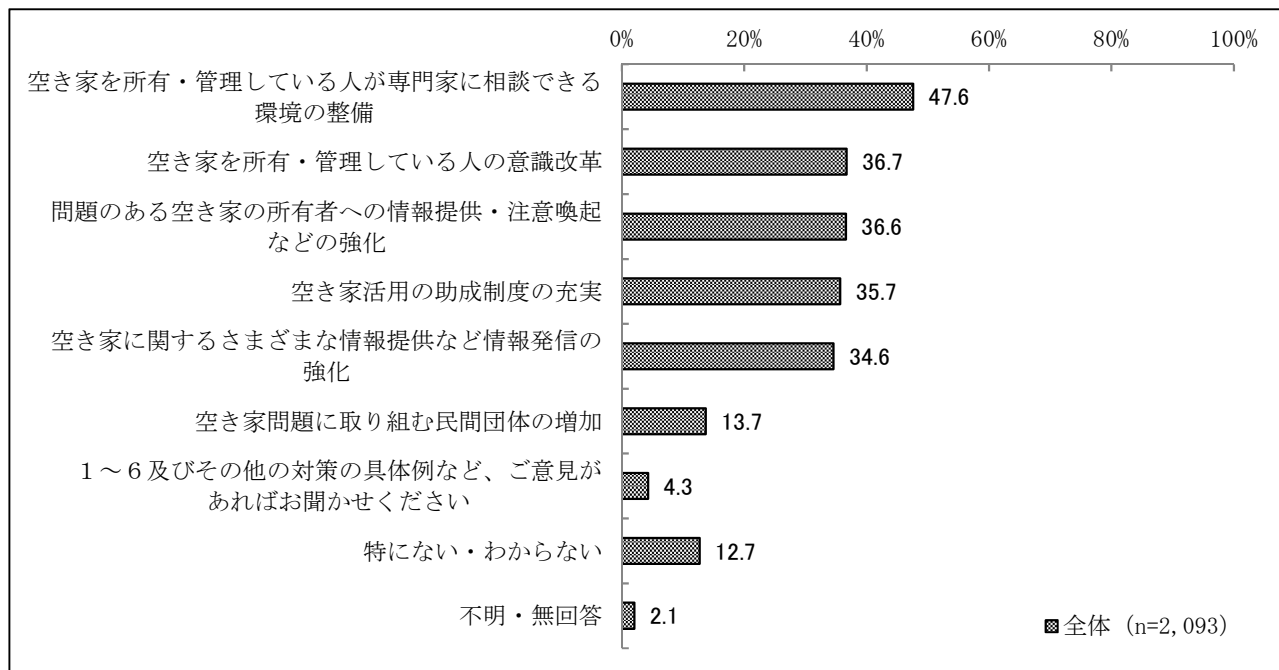


— 7割以上が『知らない』 —

「知らない」(74.7%)の割合が最も高く、7割以上となった。「空き家問題に関する周知・啓発パンフレットの配布(区役所など)」(9.4%)、「空き家の購入やリフォームへの助成」(8.9%)の割合は1割弱であった。

(3) 必要だと思う空き家対策

問22 あなたは、空き家問題を解決するために、市の空き家対策としてどのようなことが必要であると思いますか。(〇はいくつでも)

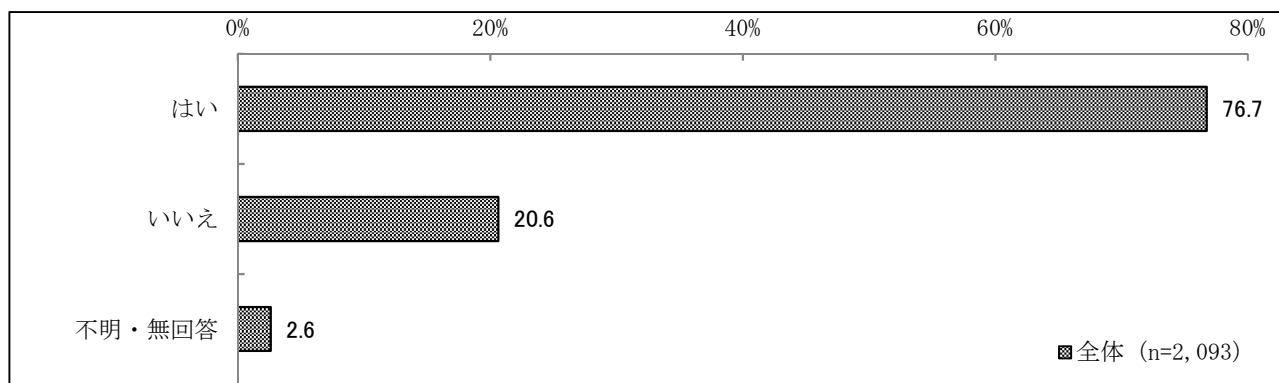


— 「空き家を所有・管理している人が専門家に相談できる環境の整備」が5割弱でトップ —

「空き家を所有・管理している人が専門家に相談できる環境の整備」(47.6%)の割合が高く5割弱だった。次いで、「空き家を所有・管理している人の意識改革」(36.7%)、「問題のある空き家の所有者への情報提供・注意喚起などの強化」(36.6%)、「空き家活用の助成制度の充実」(35.7%)、「空き家に関するさまざまな情報提供など情報発信の強化」(34.6%)が3割で続いた。

(4) 空き家の所有者（管理者）になる可能性の認知度

問23 あなたは、様々な理由で誰もが空き家の所有者（管理者）になる可能性があることを知っていますか。
 （例. 親族からの相続や親の介護施設などへの入所に伴う実家の空き家化など）

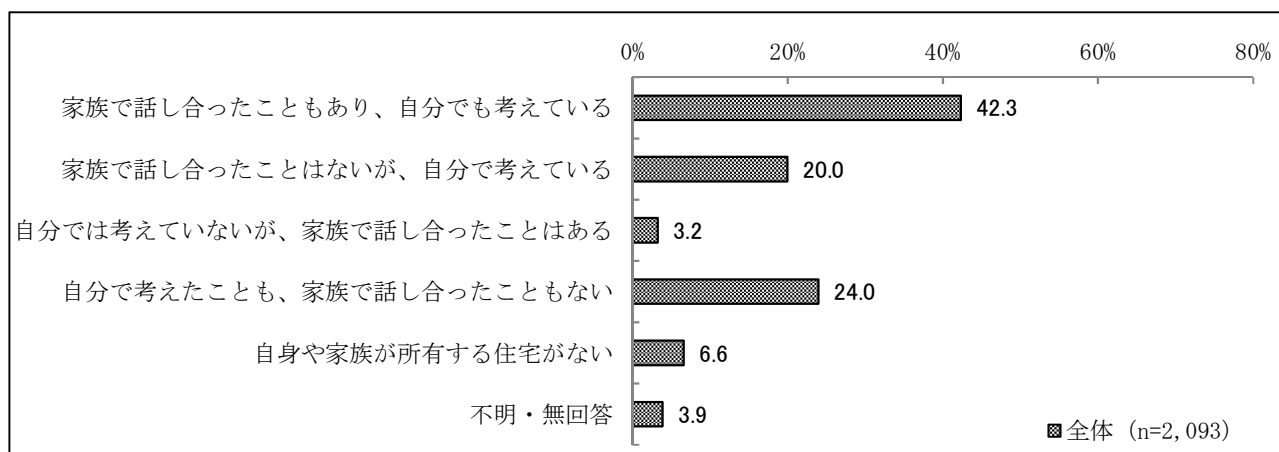


— 『知っている』は8割弱 —

空き家の所有者（管理者）になる可能性があることを知っているかの問いに「はい」の割合は76.7%で8割弱が認識していた。

(5) 空き家にしないための話し合い

問24 ご自身やご家族が所有している住宅が、将来空き家にならないように家族と話し合ったり、ご自身で考えたりしたことがありますか。また、2～4を選んだ方は、家族で話し合ったり、自分で考えたりしていない理由をお答えください。（○は1つだけ）



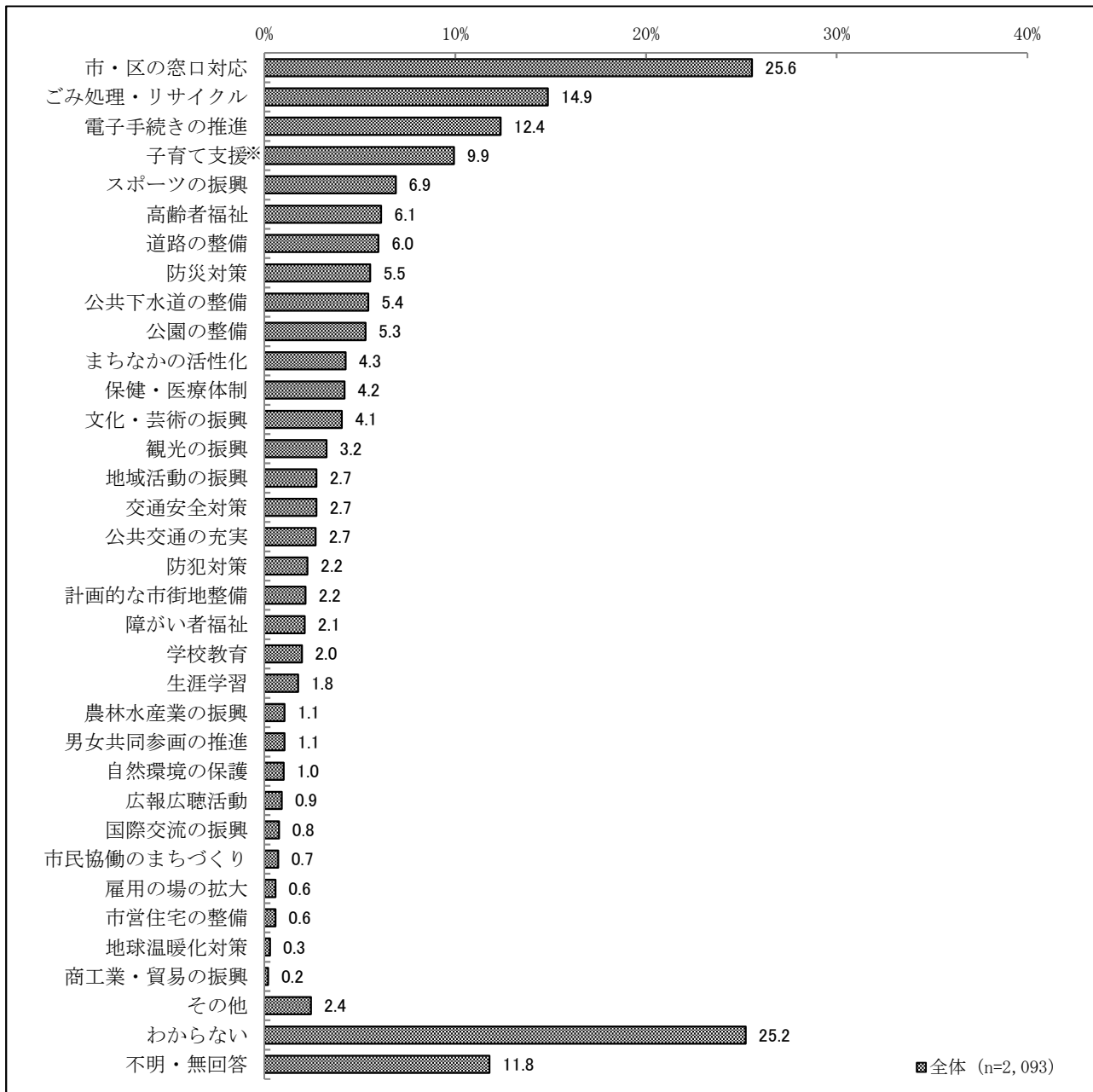
— 『自分で考えている』は6割強 —

「家族で話し合ったこともあり、自分でも考えている」(42.3%)の割合が最も高く、次いで、「自分で考えたことも、家族で話し合ったこともない」(24.0%)、「家族で話し合ったことはないが、自分で考えている」が2割となった。『家族で話し合ったことがある』の合計は45.5%、『自分で考えている』の合計は62.3%となった。

6. 市政全般と区政について

(1) 新潟市として良くなっているもの

問25 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて
 ① 「新潟市として良くなっているもの」を次の中からそれぞれ3つまでを選んで、下の回答欄に番号（1～34）をご記入ください。



※「子育て支援」は今回調査より「児童福祉」から名称を変更した

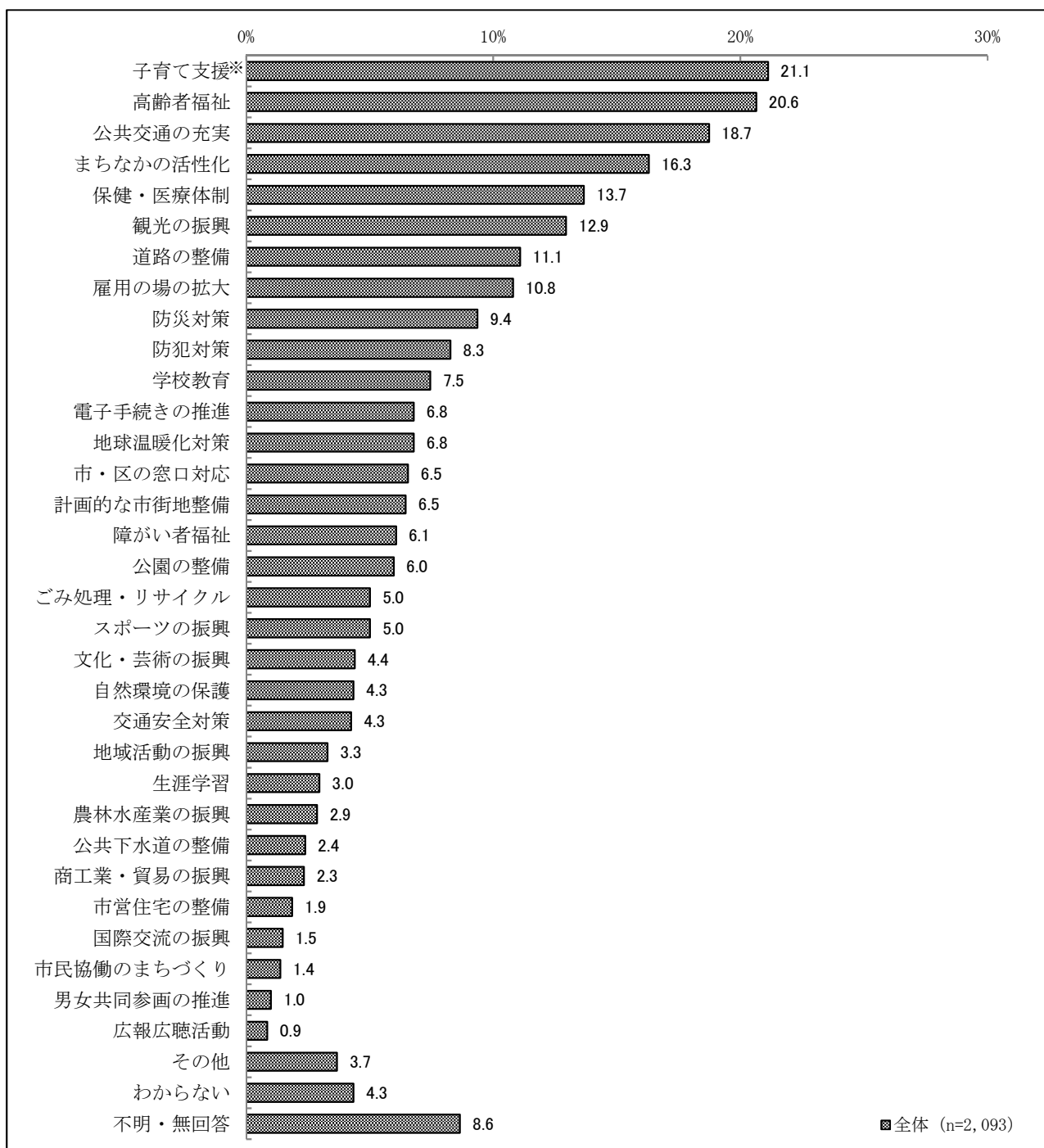
— 新潟市として良くなっているものは「市・区の窓口対応」が2割半ばでトップ —

新潟市として良くなっているものは、「市・区の窓口対応」(25.6%)の割合が最も高く、2割半ばとなった。次いで、「ごみ処理・リサイクル」(14.9%)、「電子手続きの推進」(12.4%)、「子育て支援」(9.9%)の順に高くなっている。

(2) 新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの

問25 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて

② 「新潟市として今後もっと力を入れてほしいもの」を次の中からそれぞれ3つまでを選んで、下の回答欄に番号(1~34)をご記入ください。



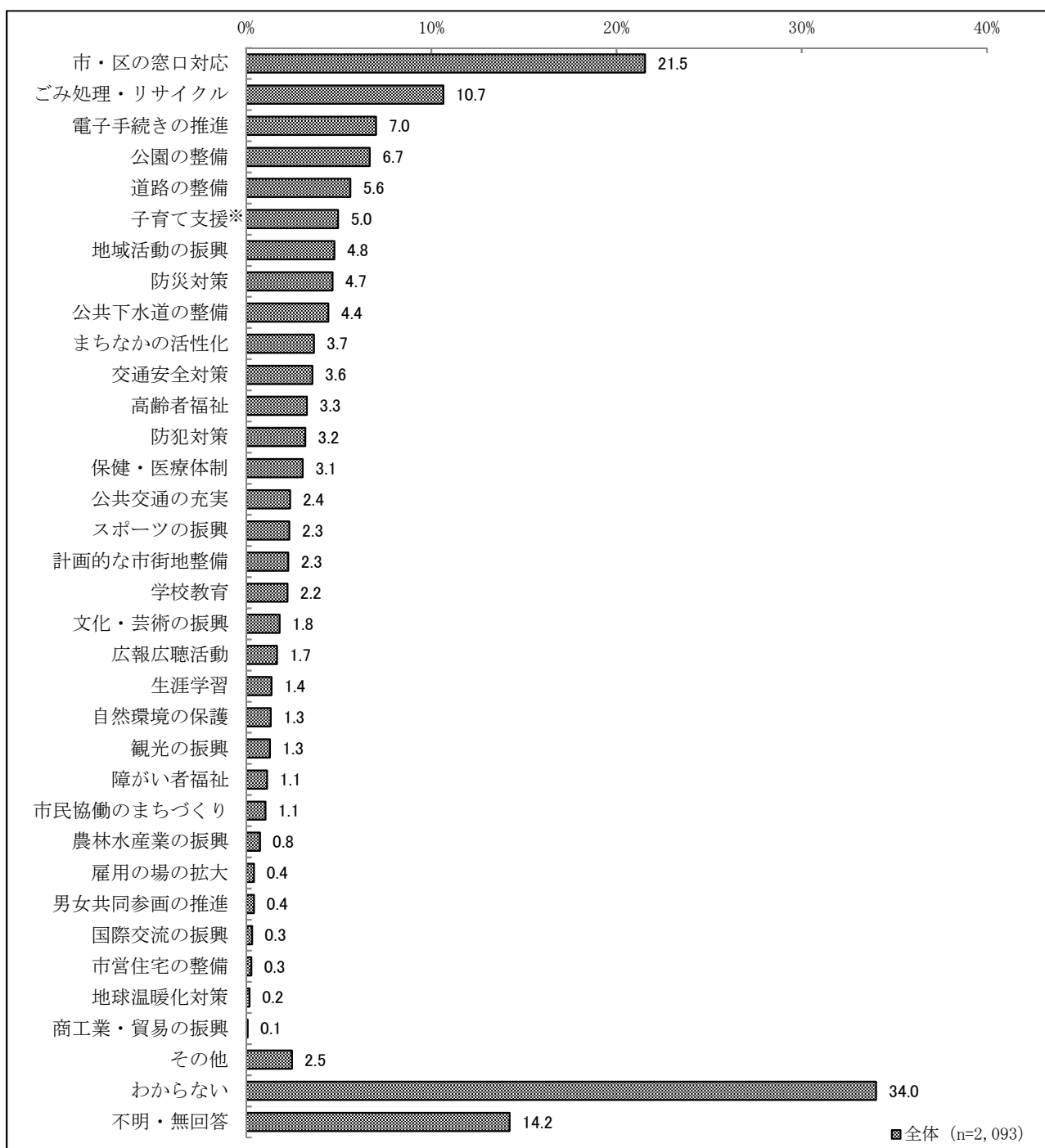
※「子育て支援」は今回調査より「児童福祉」から名称を変更した

— 「子育て支援」、「高齢者福祉」、「公共交通の充実」がトップ3 —

新潟市として今後もっと力を入れてほしいものは、「子育て支援」(21.1%)が最も高かった。次いで「高齢者福祉」(20.6%)、「公共交通の充実」(18.7%)、「まちなかの活性化」(16.3%)の順に続いた。

(3) 区として良くなっているもの

問25 市役所とあなたがお住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて
 ③「区として良くなっているもの」を次の中からそれぞれ3つまでを選んで、下の回答欄
 に番号(1~34)をご記入ください。



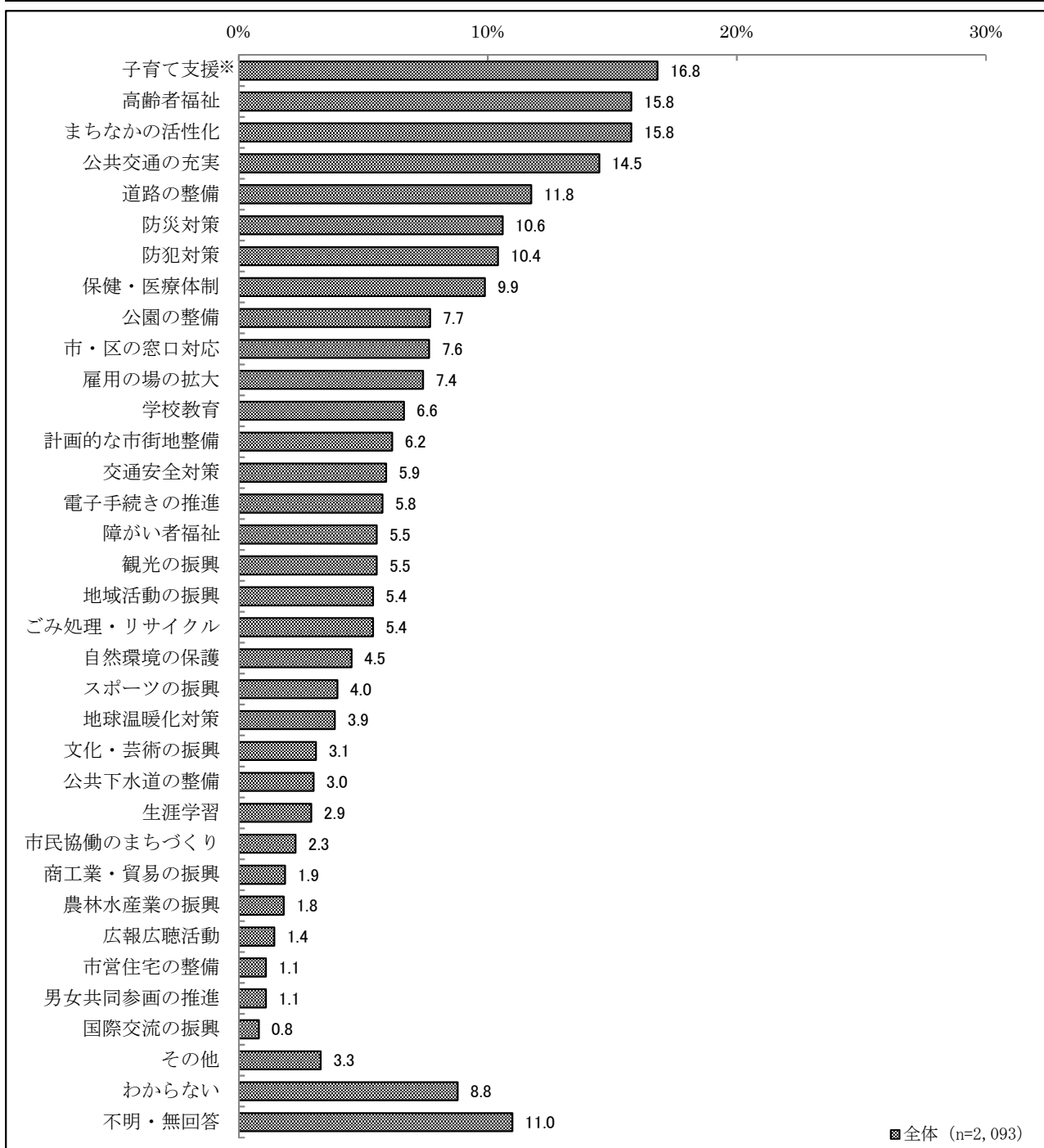
※「子育て支援」は今回調査より「児童福祉」から名称を変更した

— 「市・区の窓口対応」が約2割でトップ —

区として良くなっているものは、「市・区の窓口対応」(21.5%)の割合が最も高く、「ごみ処理・リサイクル」(10.7%)、「電子手続きの推進」(7.0%)、「公園の整備」(6.7%)の順に続く。

(4) 区として今後もっと力を入れてほしいもの

問25 市役所とあなたが住まいの区の区役所が行っている施策や事業で、以前に比べて
 ④「区として今後もっと力を入れてほしいもの」を次の中からそれぞれ3つまでを選んで、下の回答欄に番号(1~34)をご記入ください。



※「子育て支援」は今回調査より「児童福祉」から名称を変更した

— 「子育て支援」、「高齢者福祉」、「まちなかの活性化」がトップ3 —

区として今後もっと力を入れてほしいものは、「子育て支援」(16.8%)、次いで「高齢者福祉」(15.8%)、「まちなかの活性化」(15.8%)の順で続く。

第50回 市政世論調査

《概要版》

(令和5年度)

発行：令和5年10月

発行者：新潟市市民生活部広聴相談課

〒951-8550

新潟県新潟市中央区学校町通1番町602番地1

電話：025-226-2094